

名目総雇用者所得

図1 Bry-Boschan法による山谷

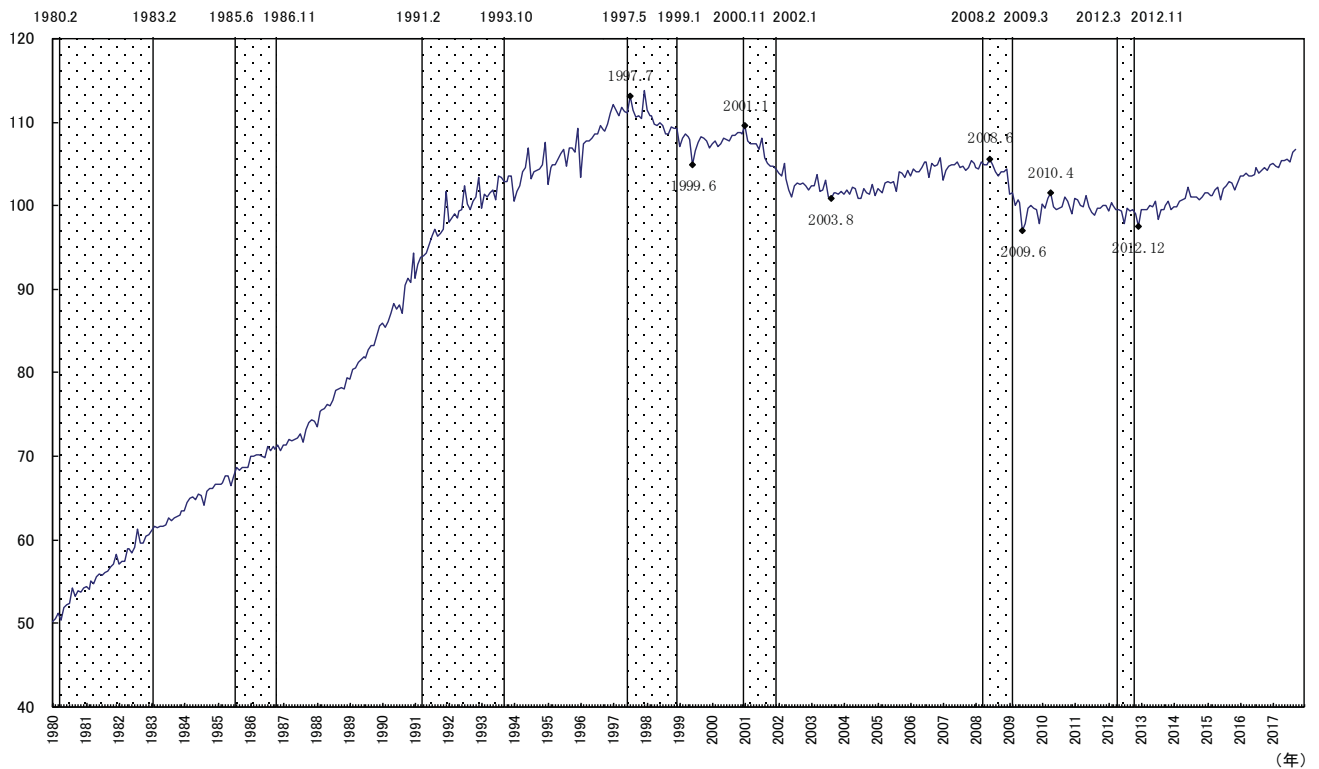


図2 パターン分析

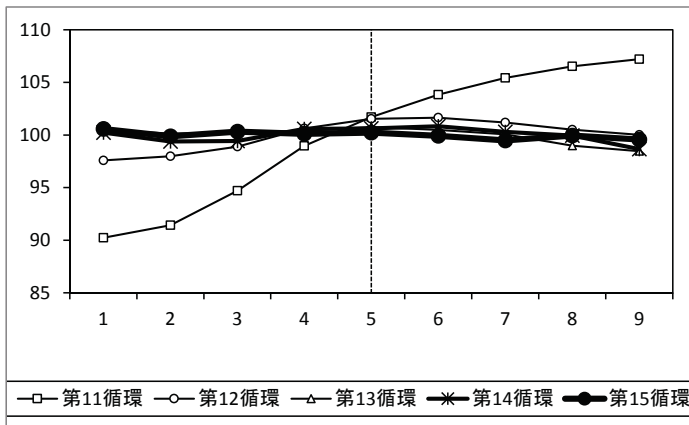


図3 時差相関

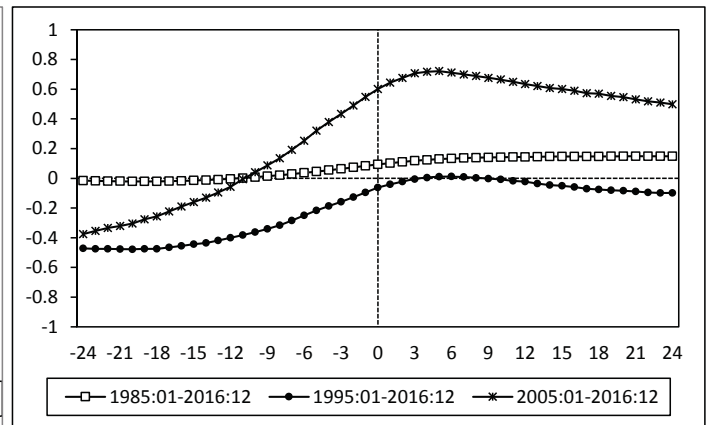


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:+21 1995-2016:+6 2005-2016:+5	第10~15循環:-3 第12~15循環:-1	4

実質総雇用者所得

図1 Bry-Boschan法による山谷

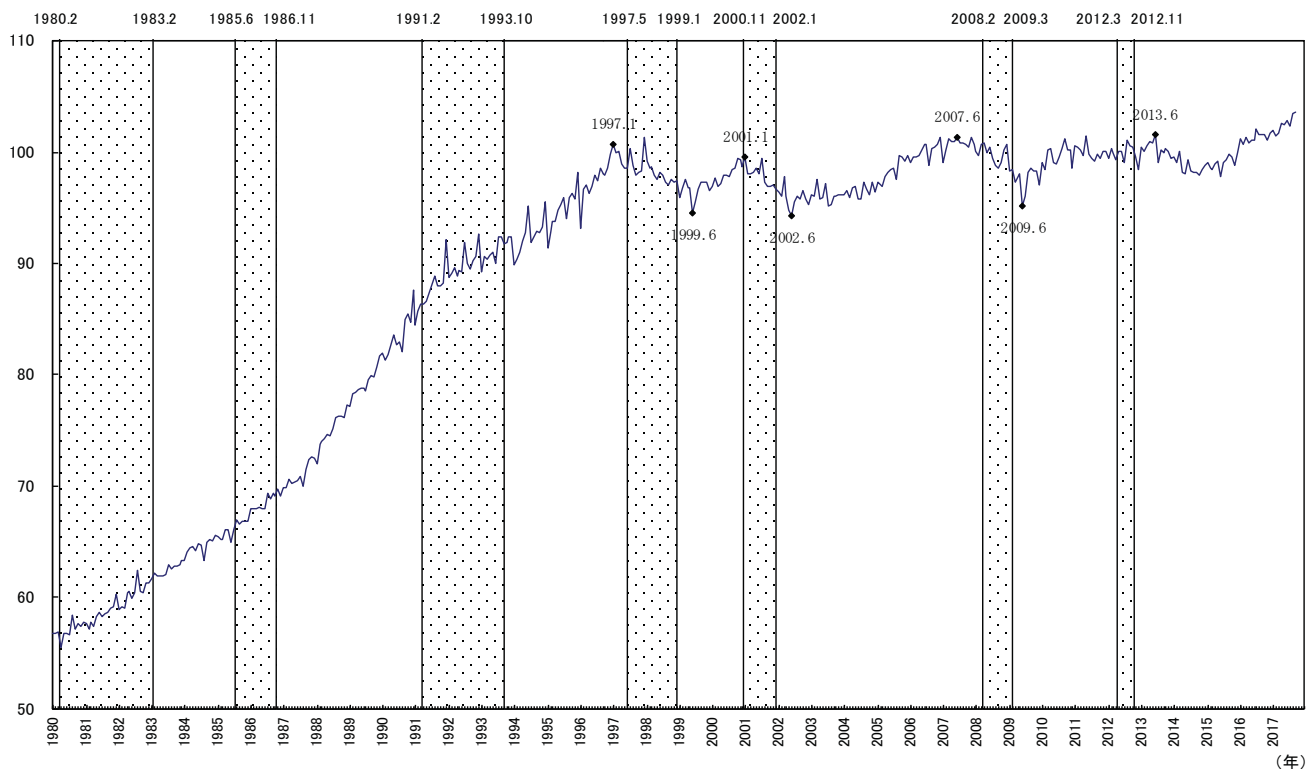


図2 パターン分析

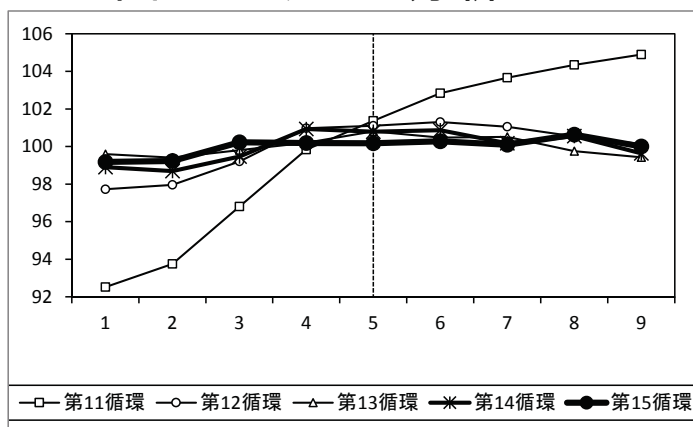


図3 時差相関

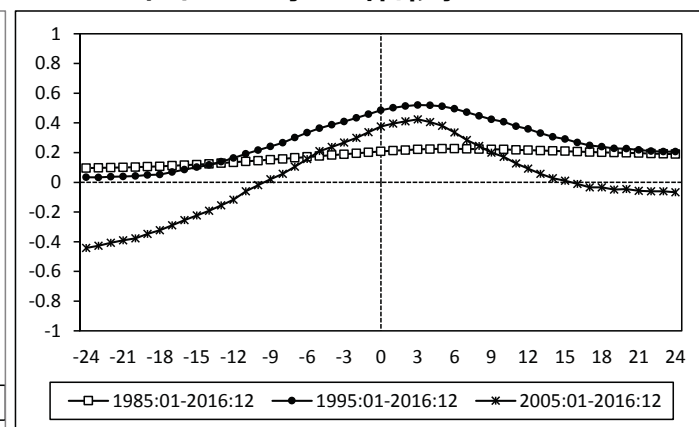


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:+6 1995-2016:+3 2005-2016:+3	第10~15循環:-4 第12~15循環:-2	4

名目総定期給与所得

図1 Bry-Boschan法による山谷

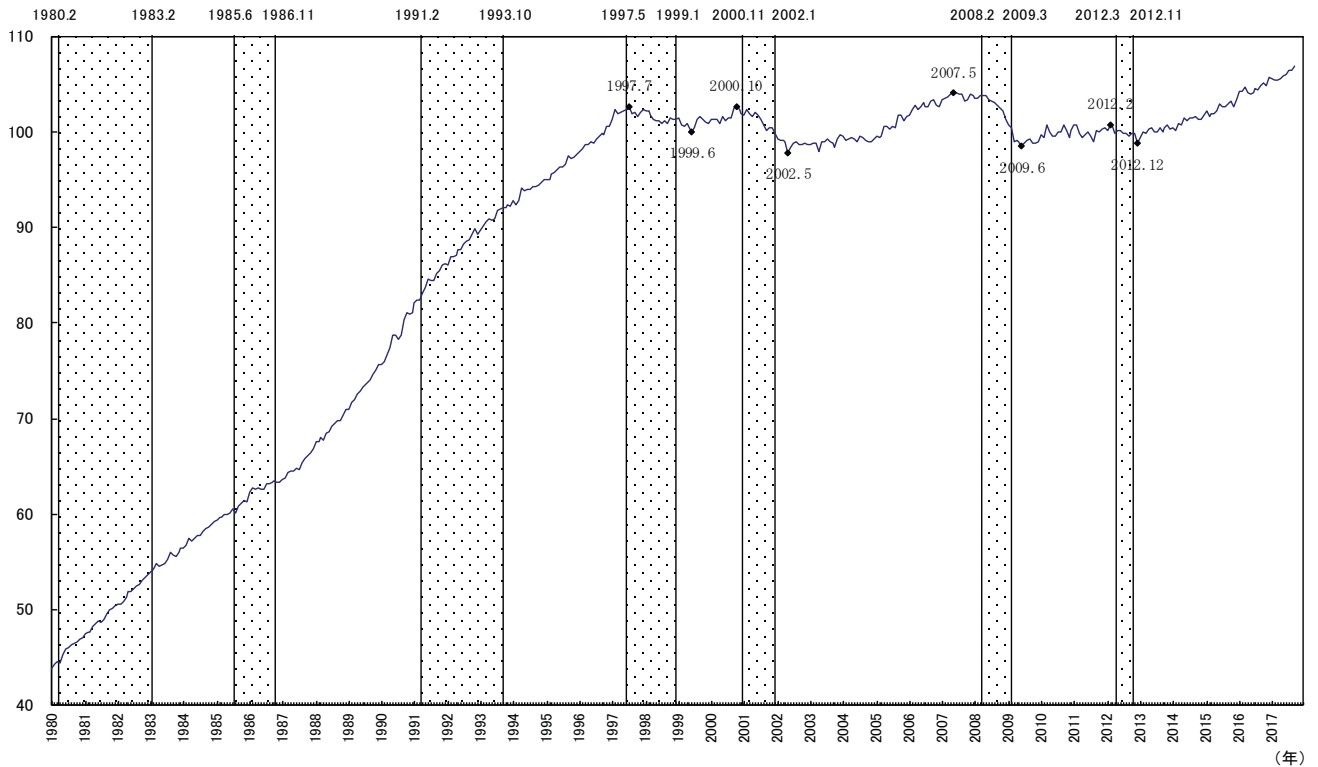


図2 パターン分析

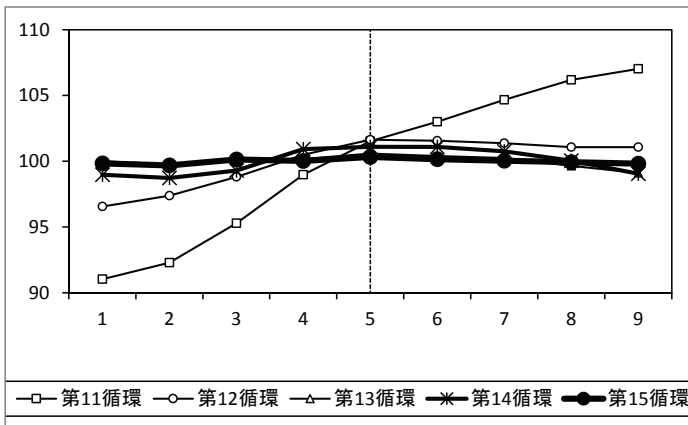


図3 時差相関

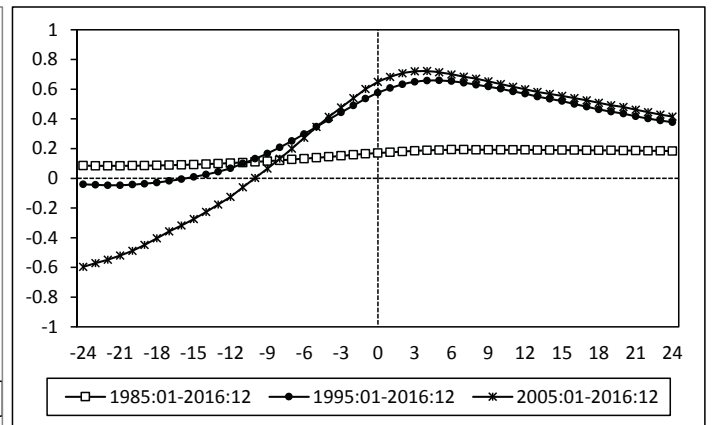


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016:+6 1995-2016:+5 2005-2016:+4	第10~15循環:-3 第12~15循環:-1	2

実質総定期給与所得

図1 Bry-Boschan法による山谷

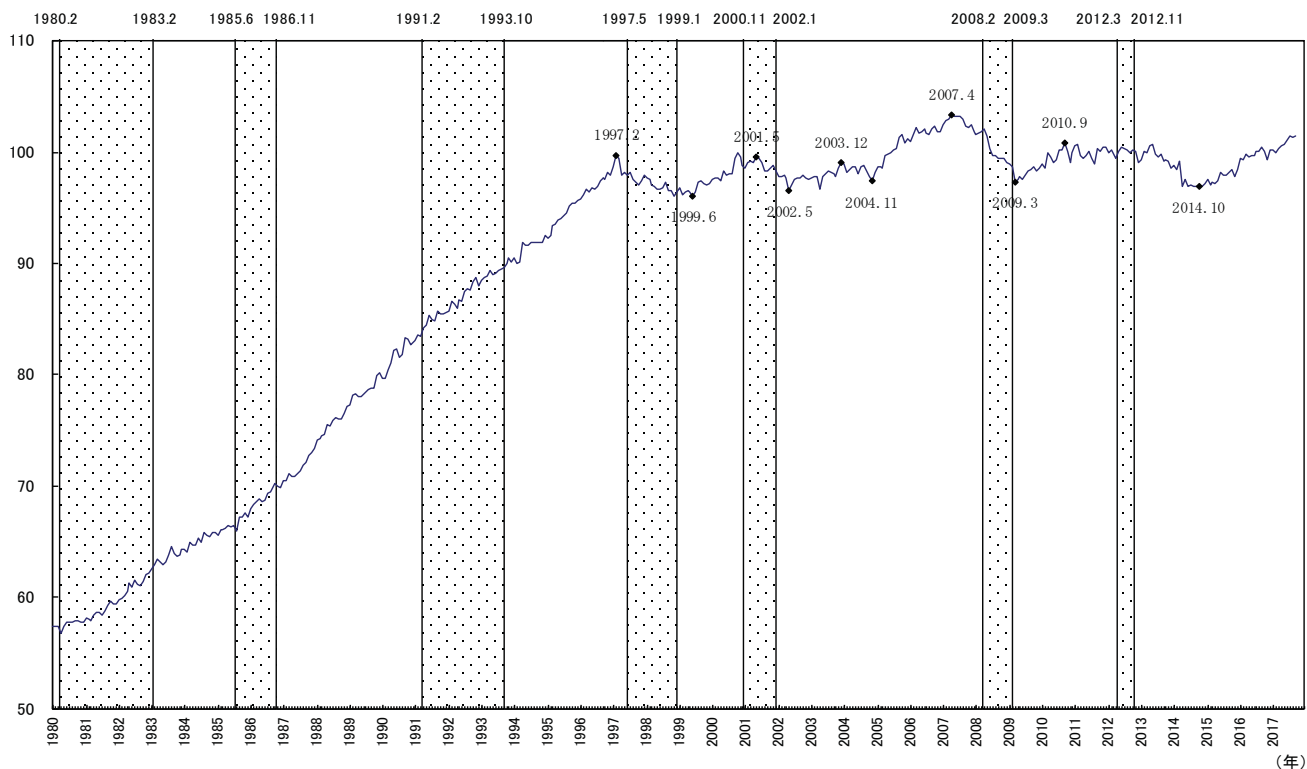


図2 パターン分析

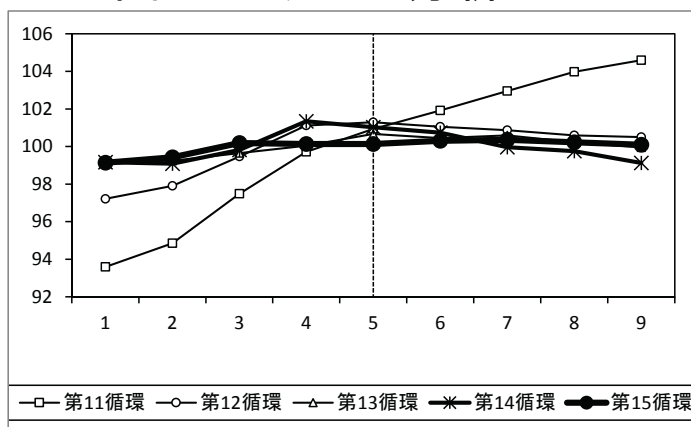


図3 時差相関

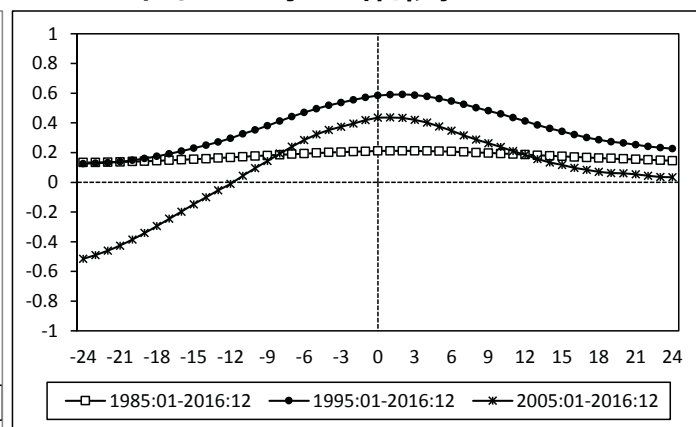


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:+2 1995-2016:+2 2005-2016:+1	第10~15循環:-3 第12~15循環:-1	3

労働投入量(雇用者数×労働時間)

図1 Bry-Boschan法による山谷

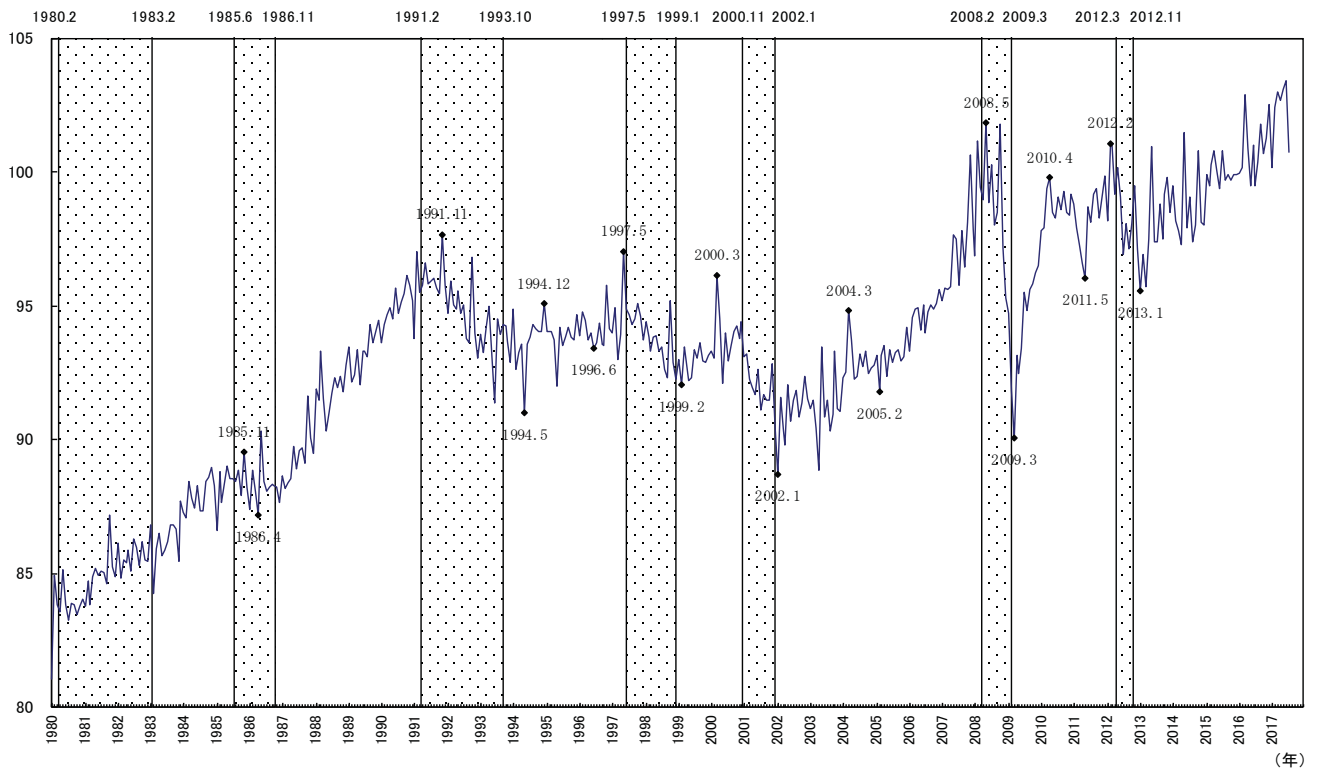


図2 パターン分析

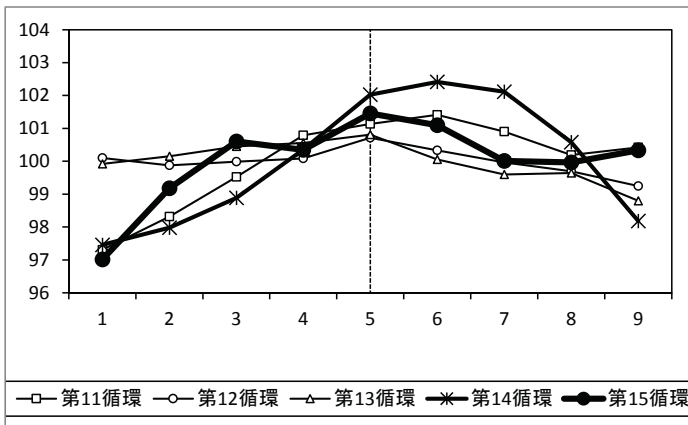


図3 時差相関

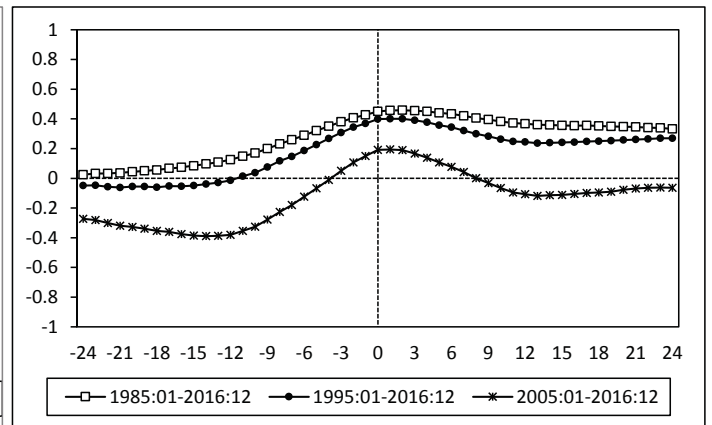


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:+2 1995-2016:+1 2005-2016:+1	第10~15循環:+2 第12~15循環:+3	6

労働投入量(製造業)

図1 Bry-Boschan法による山谷

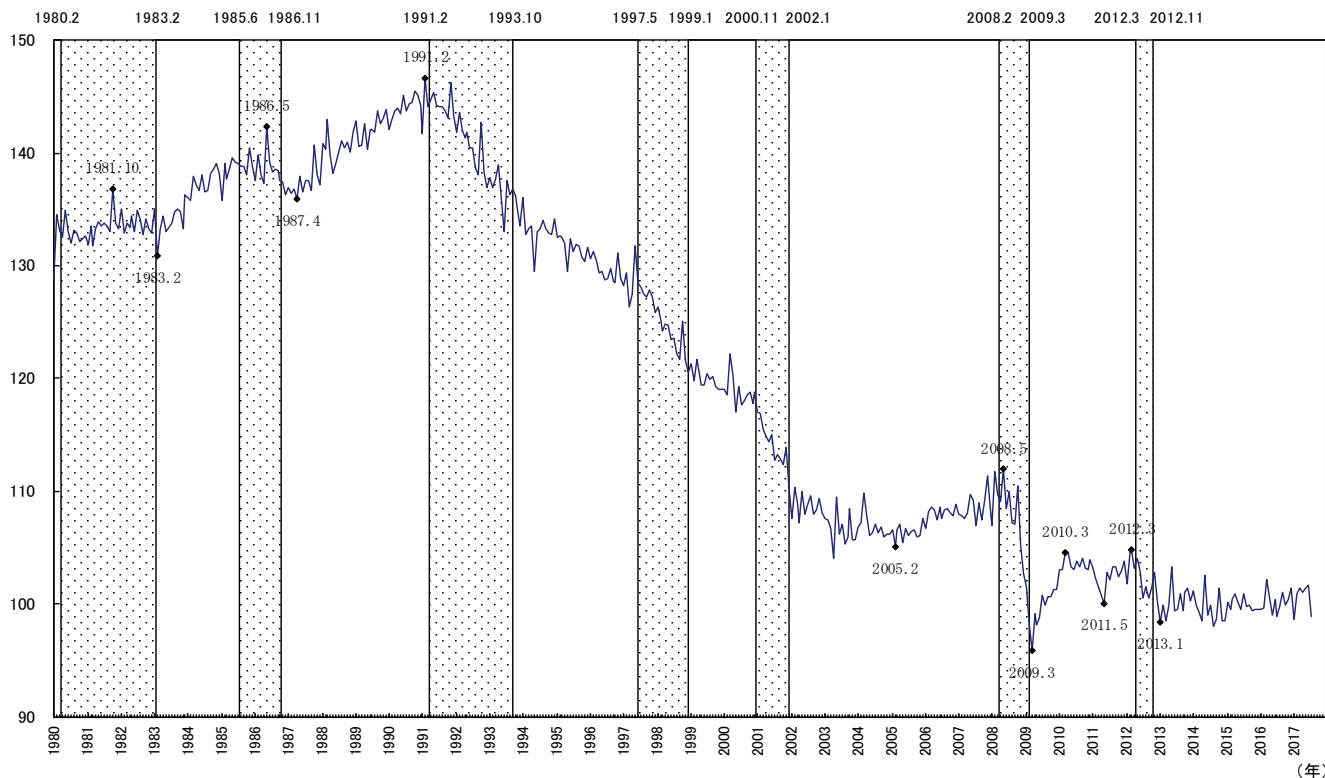


図2 パターン分析

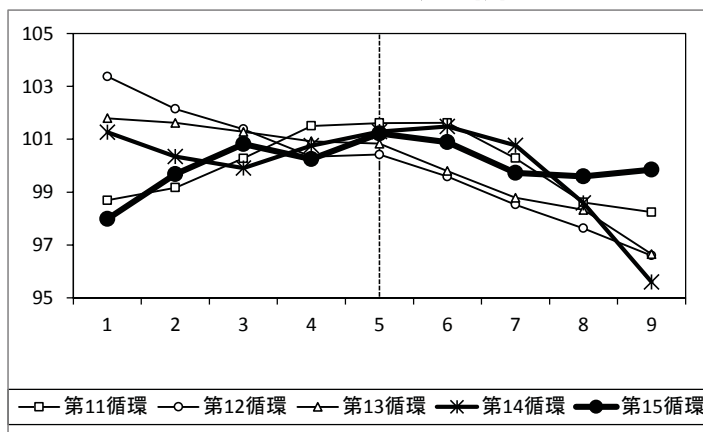


図3 時差相関

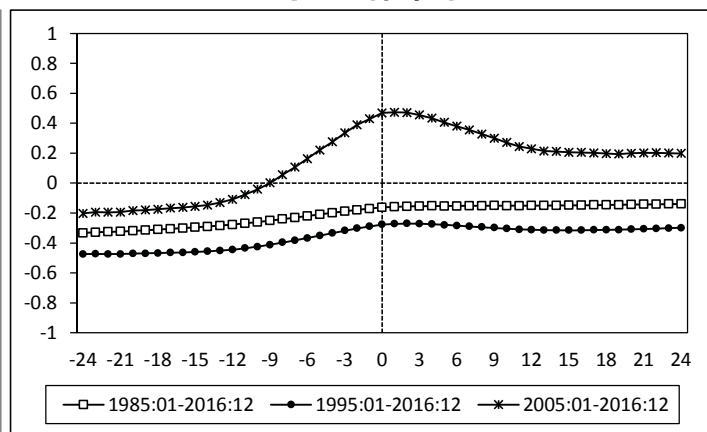


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016: × 1995-2016: +2 2005-2016: +1	第10~15循環: -1 第12~15循環: -1	5

所定外労働時間指数__製造業

図1 Bry-Boschan法による山谷

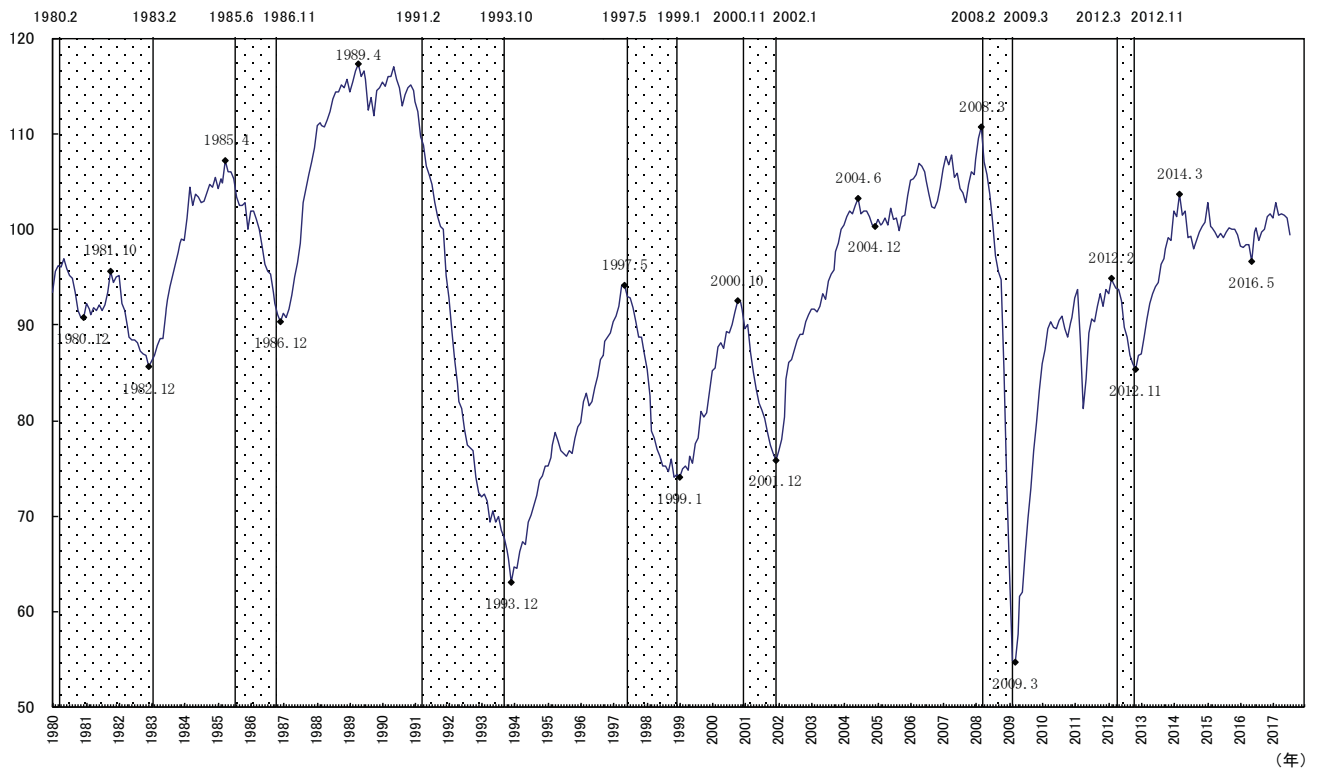


図2 パターン分析

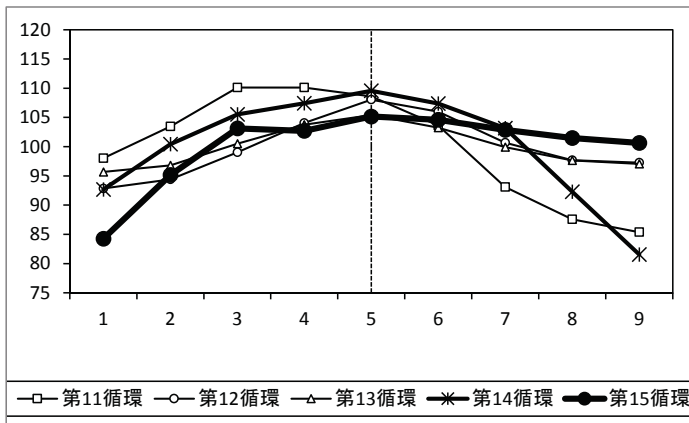


図3 時差相関

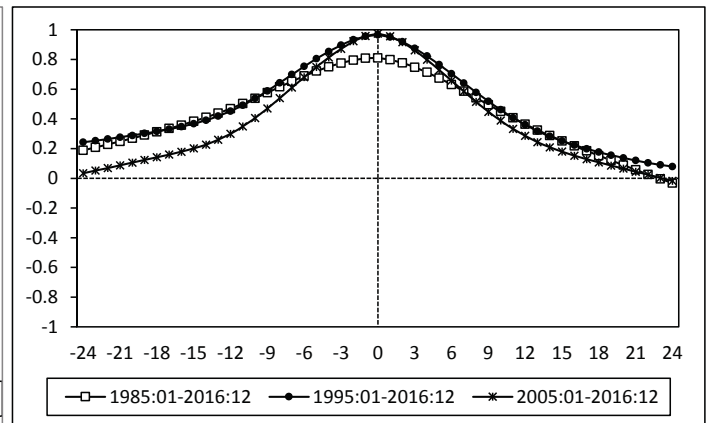


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016:0	第10~15循環:+1 第12~15循環:+1	1
	1995-2016:0		
	2005-2016:0		

総実労働時間指数__調査産業計

図1 Bry-Boschan法による山谷

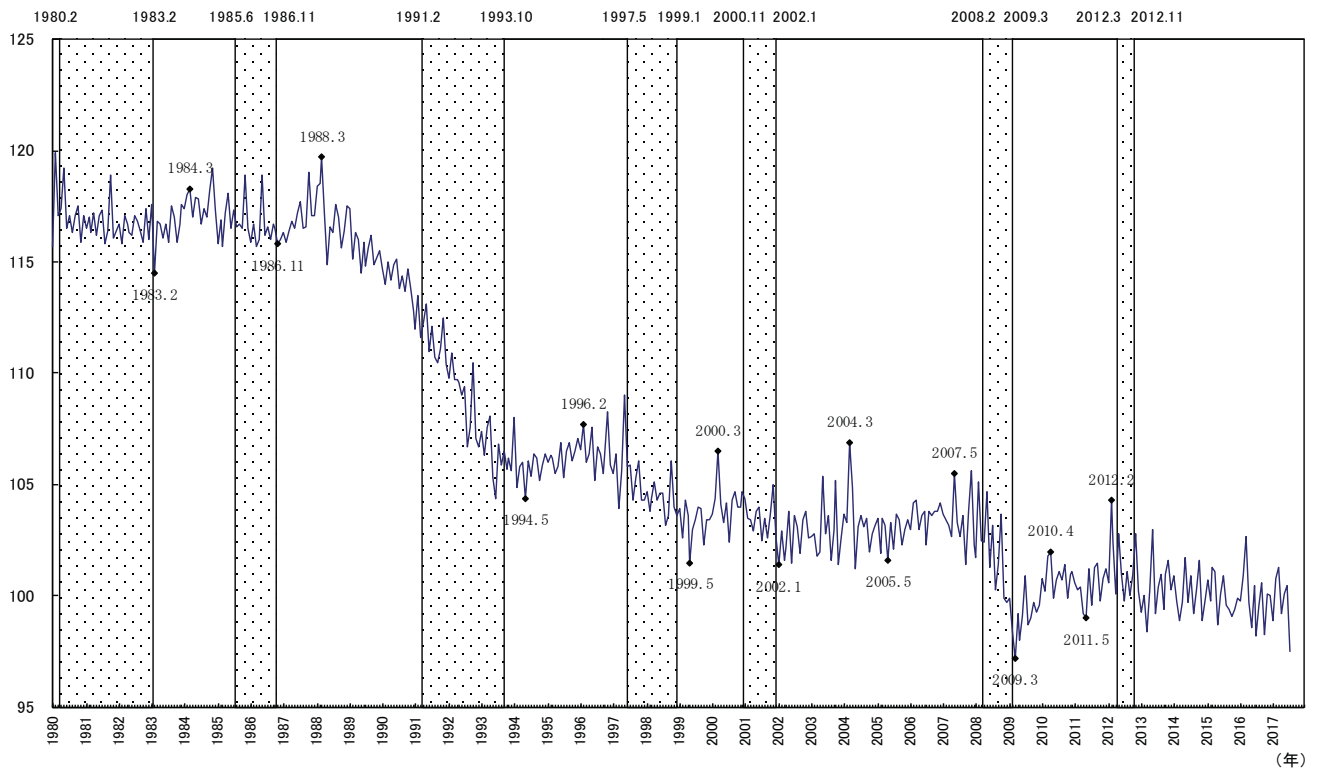


図2 パターン分析

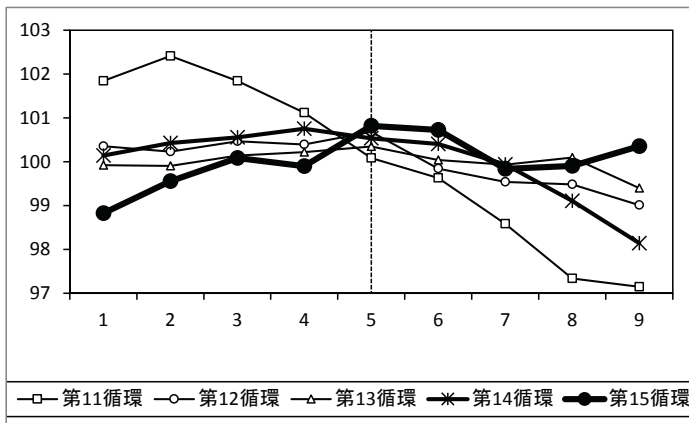


図3 時差相関

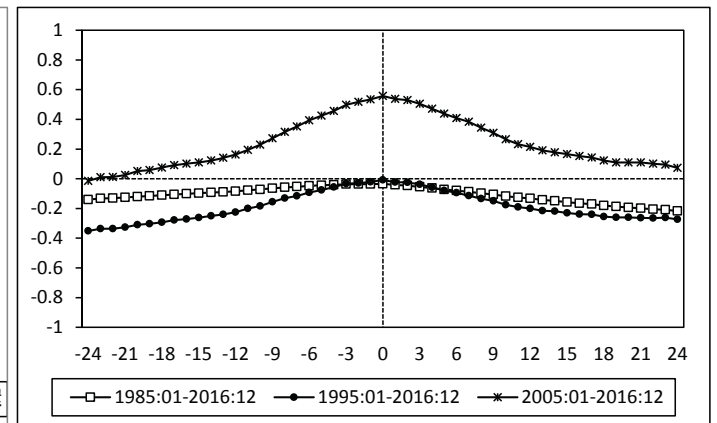


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:0	第10～15循環:+1 第12～15循環:+1	9
	1995-2016:0		
	2005-2016:0		

総実労働時間指数_製造業

図1 Bry-Boschan法による山谷

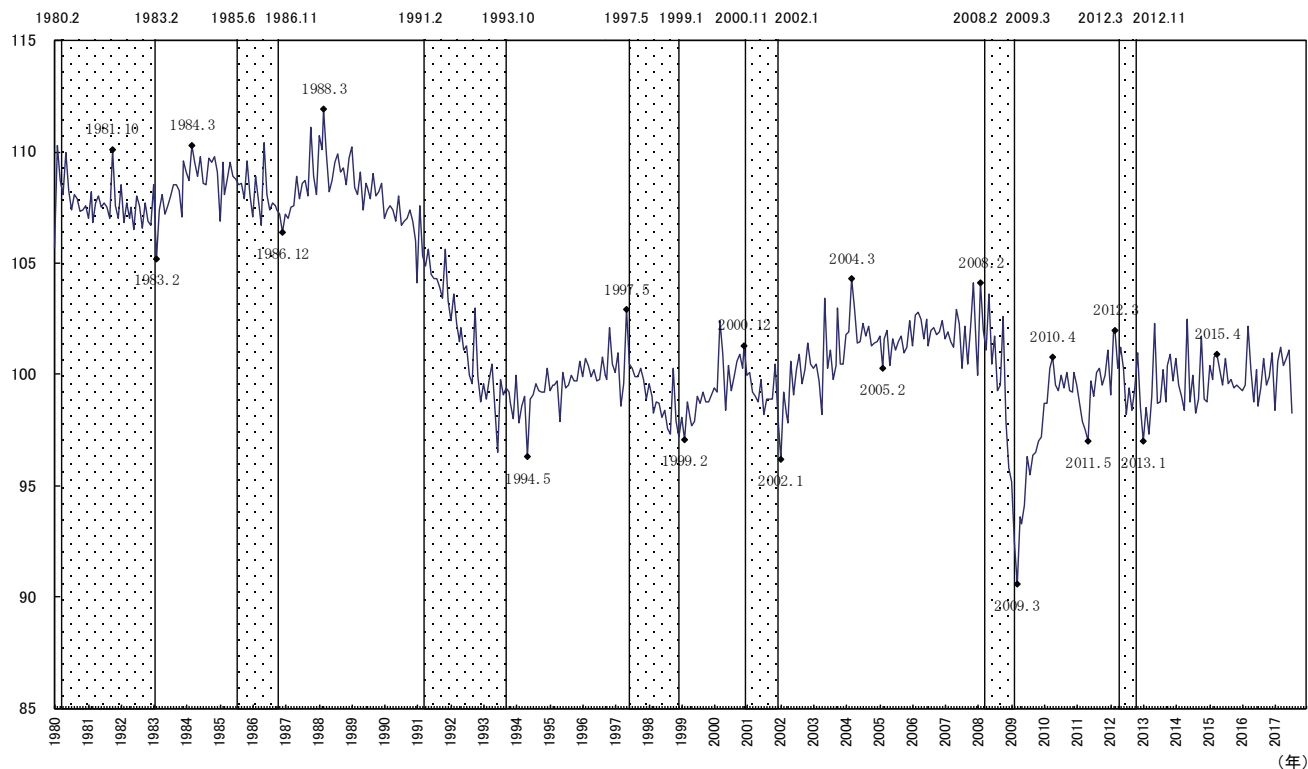


図2 パターン分析

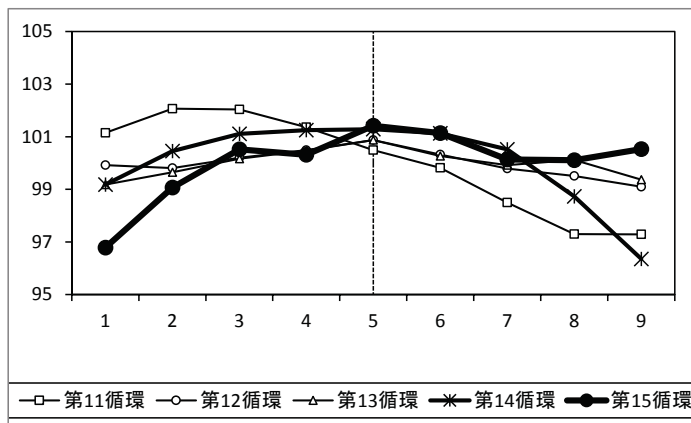


図3 時差相関

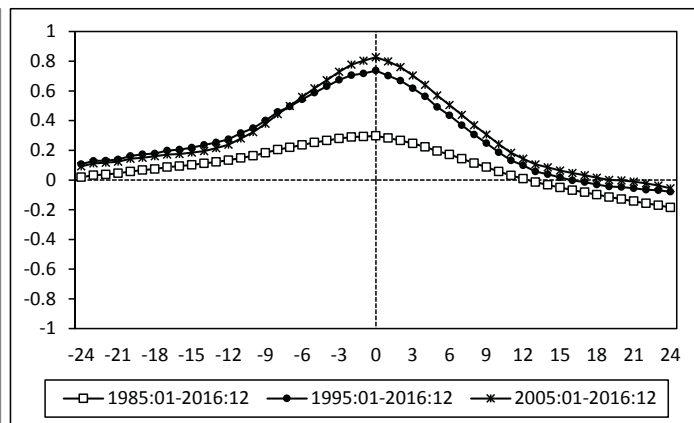


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:0	第10~15循環:+2 第12~15循環:+2	6
	1995-2016:0		
	2005-2016:0		

所定外労働時間指数_卸売・小売業

図1 Bry-Boschan法による山谷

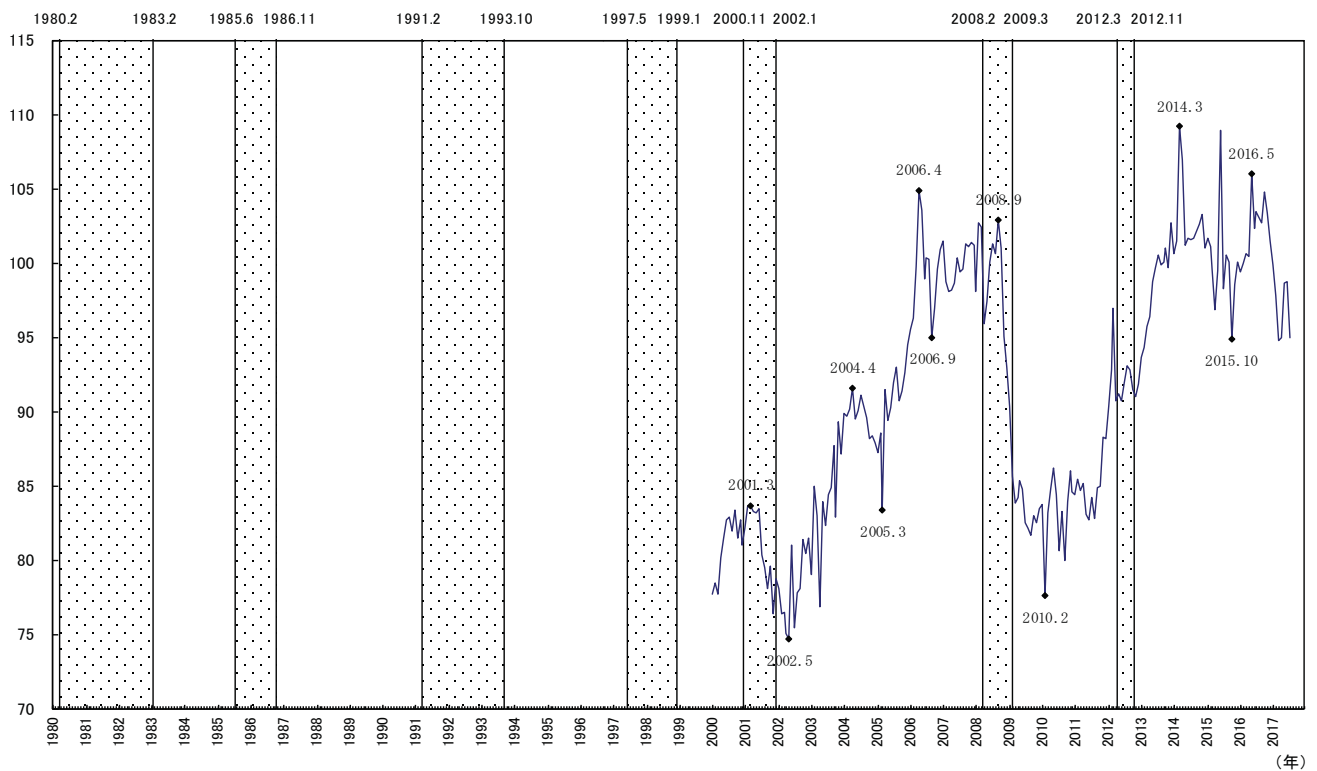


図2 パターン分析

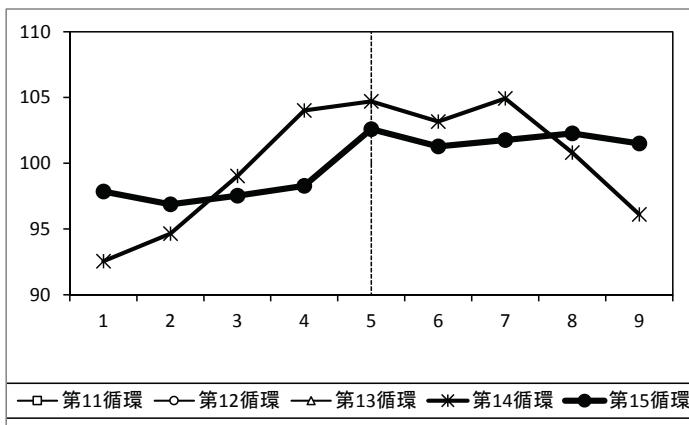


図3 時差相関

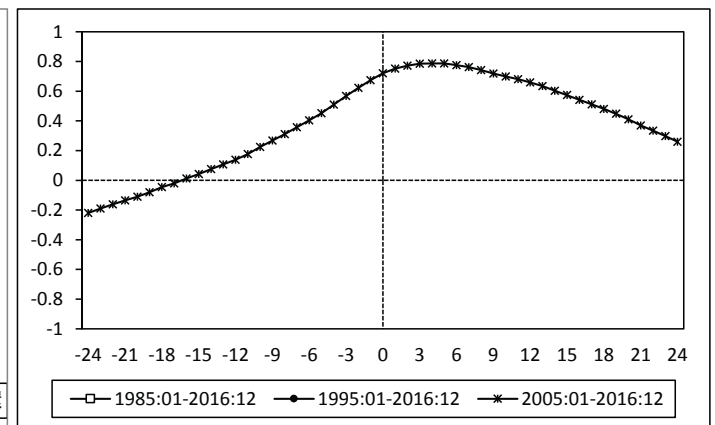


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
遅行	1985-2016: NA 1995-2016: NA 2005-2016: +5	第10~15循環: +1 第12~15循環: +1	4

所定外労働時間指数__医療・福祉

図1 Bry-Boschan法による山谷

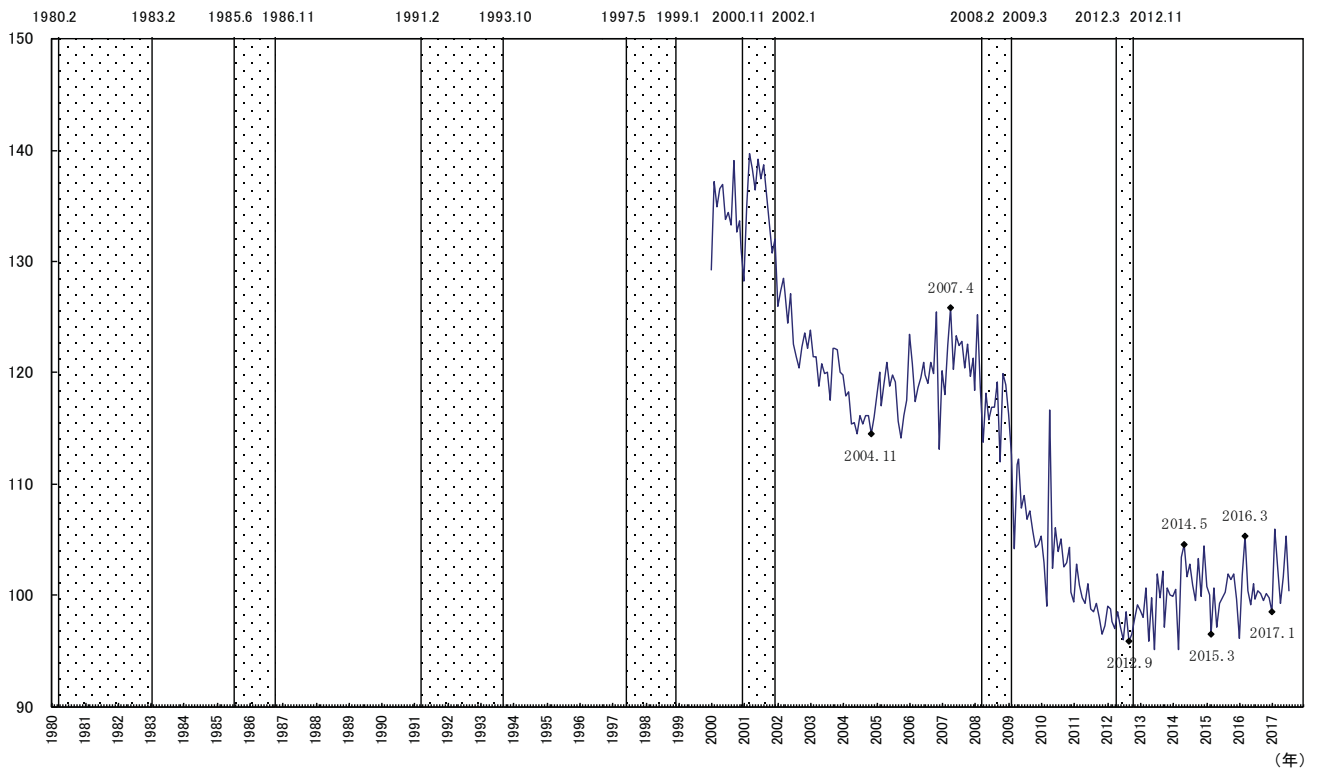


図2 パターン分析

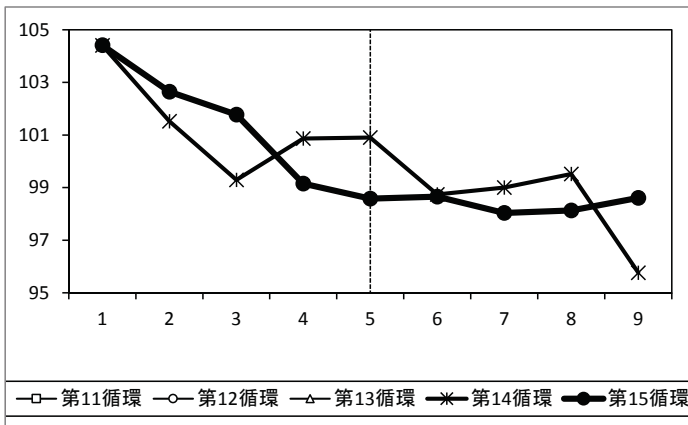


図3 時差相関

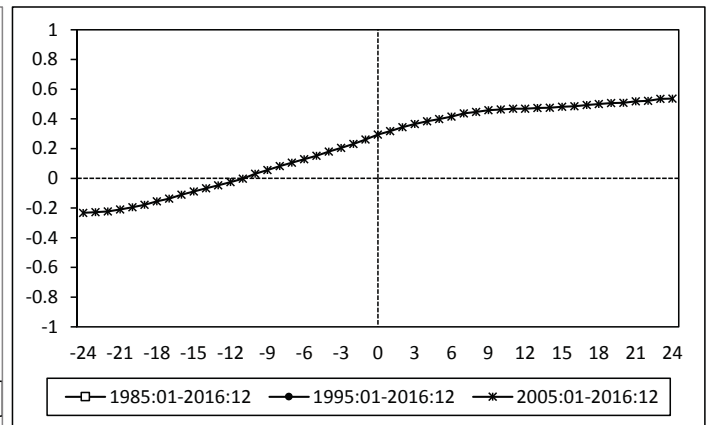


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016: NA 1995-2016: NA 2005-2016: ×	第10～15循環: -1 第12～15循環: -1	6

所定外労働時間指数_調査産業計 一般

図1 Bry-Boschan法による山谷

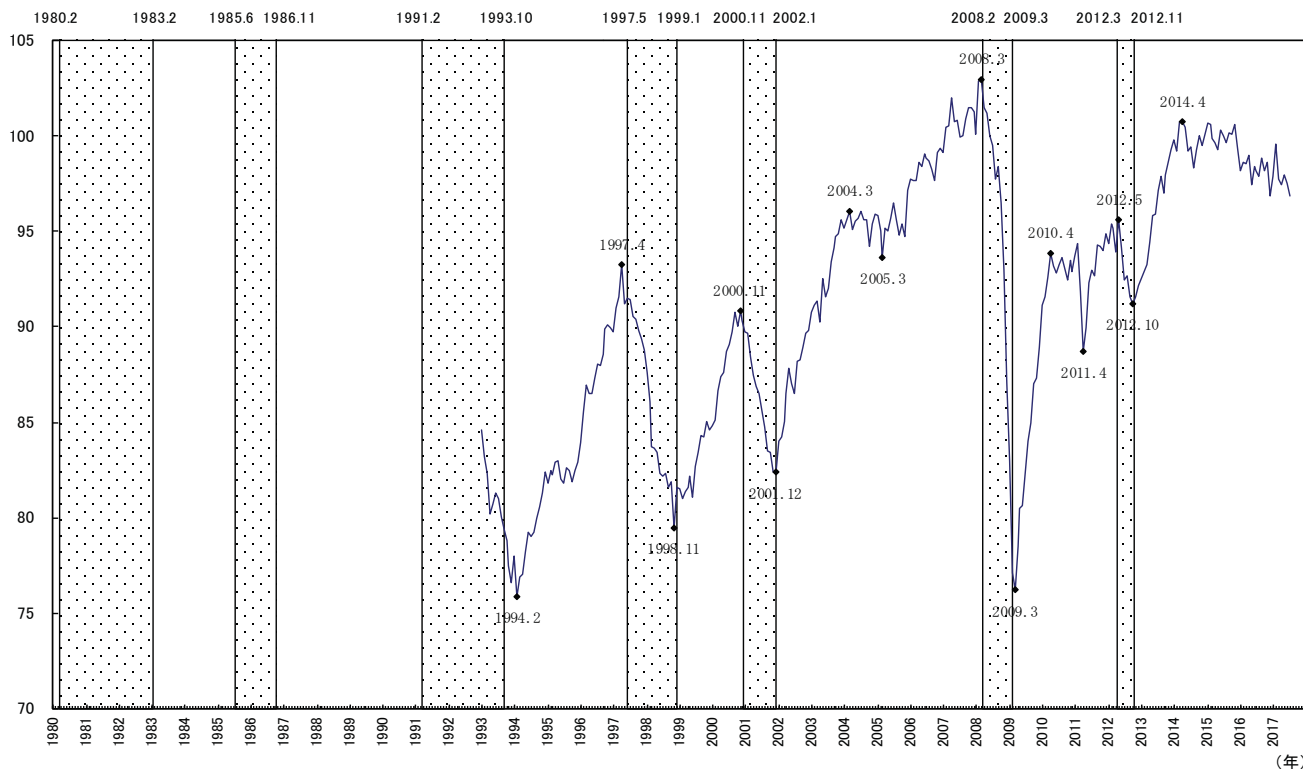


図2 パターン分析

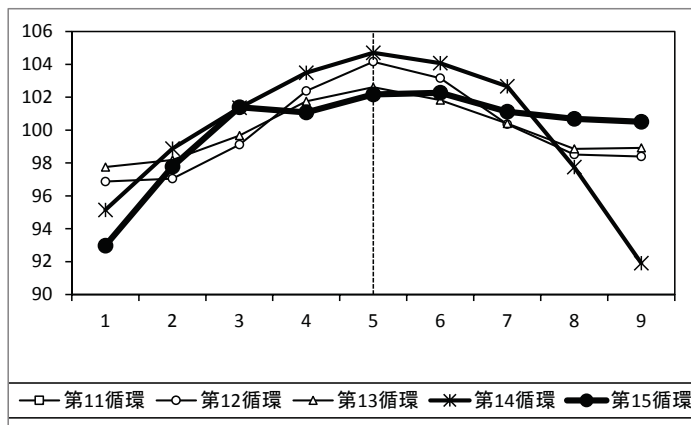


図3 時差相関

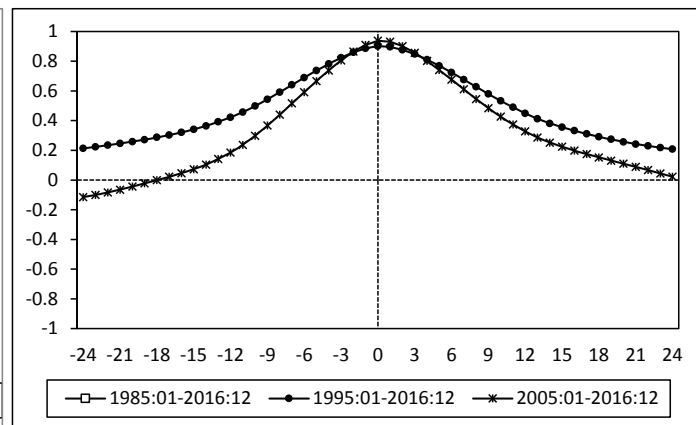


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016: NA 1995-2016: 0 2005-2016: 0	第10~15循環: +2 第12~15循環: +2	2

所定外労働時間指数_調査産業計 パート

図1 Bry-Boschan法による山谷

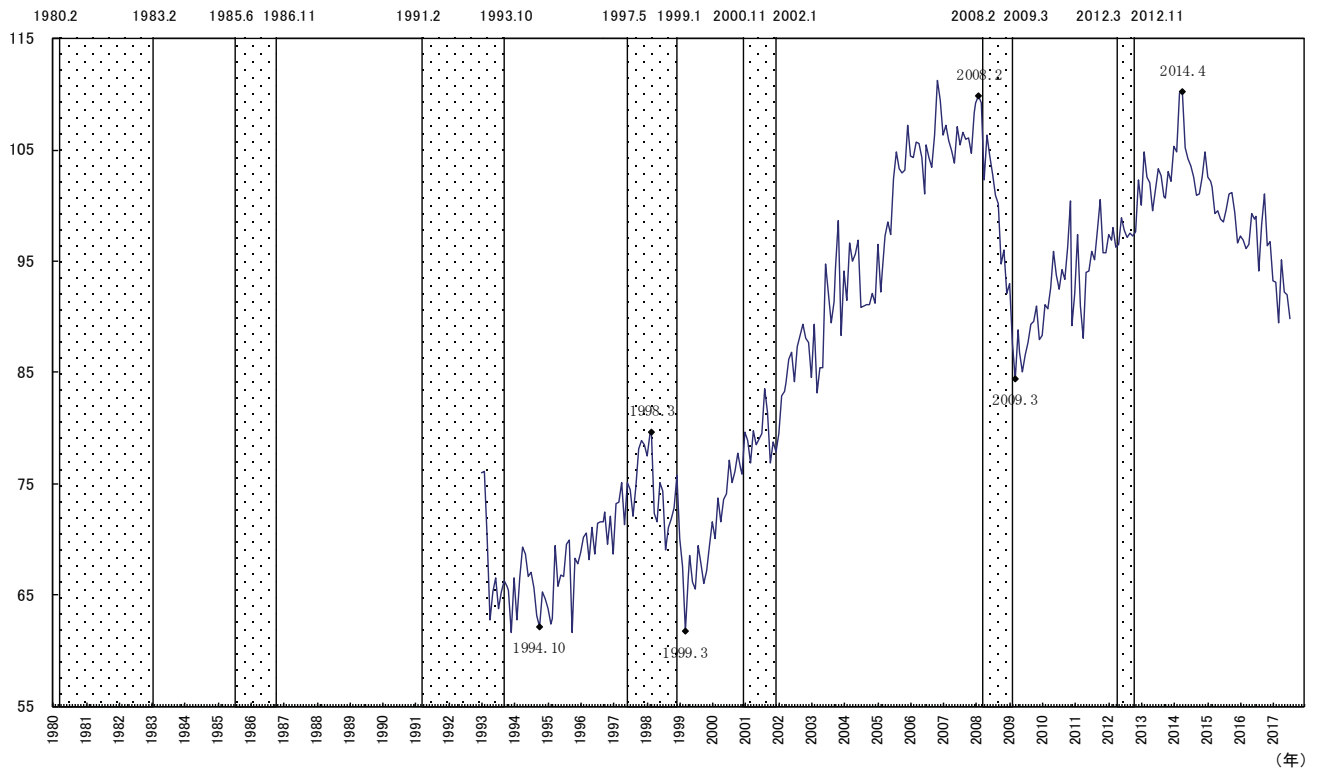


図2 パターン分析

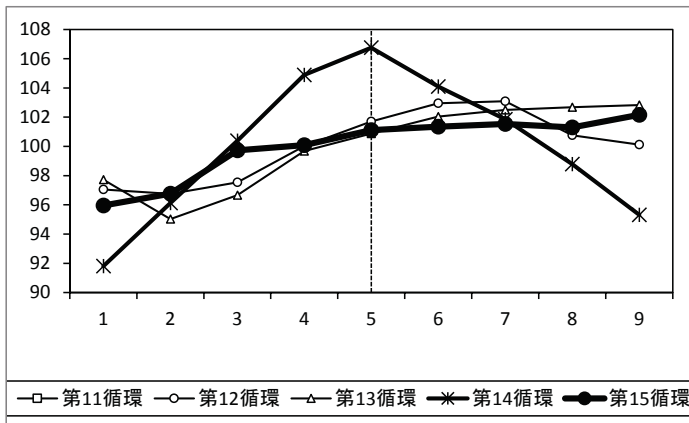


図3 時差相関

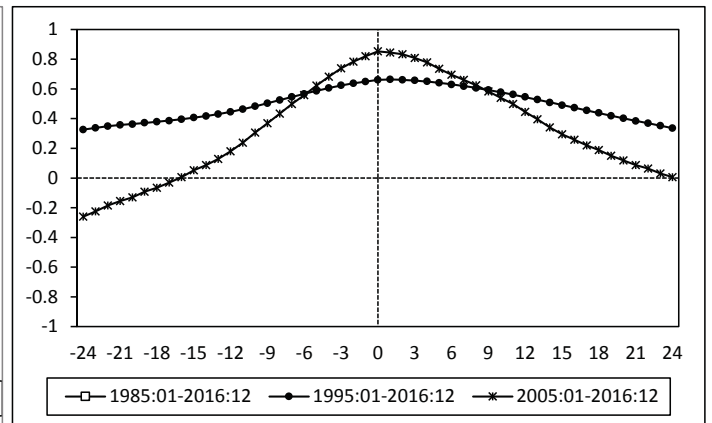


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016: NA 1995-2016: +1 2005-2016: 0	第10~15循環: -2 第12~15循環: -2	4

所定内労働時間指数__調査産業計

図1 Bry-Boschan法による山谷

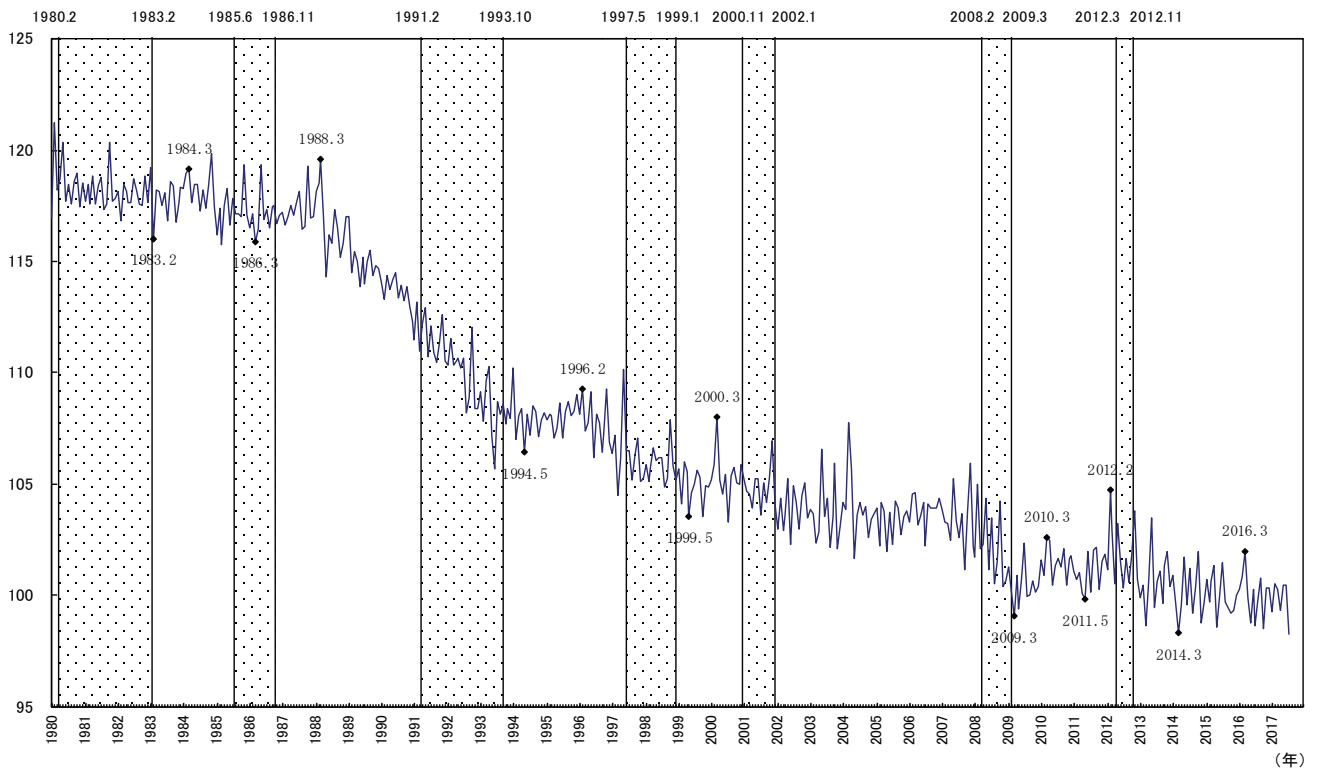


図2 パターン分析

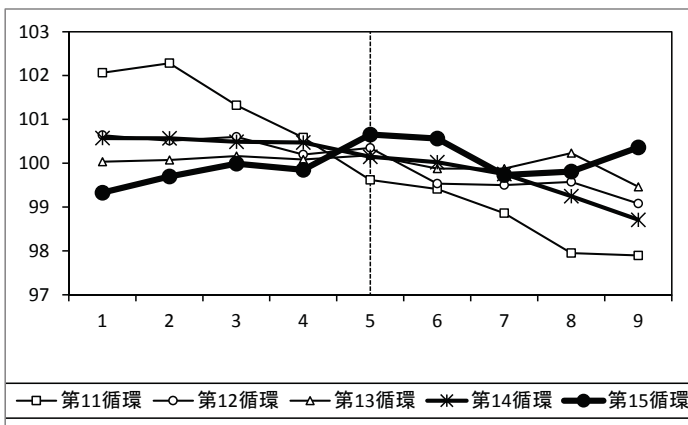


図3 時差相関

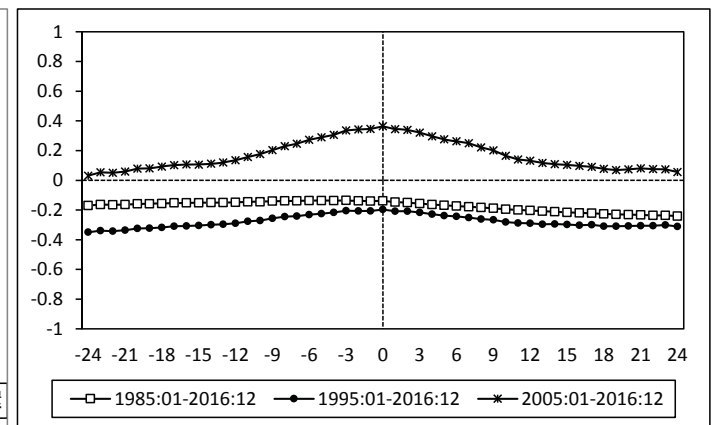


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:-3 1995-2016:0 2005-2016:0	第10~15循環:-1 第12~15循環:-1	9

所定内労働時間指数__製造業

図1 Bry-Boschan法による山谷

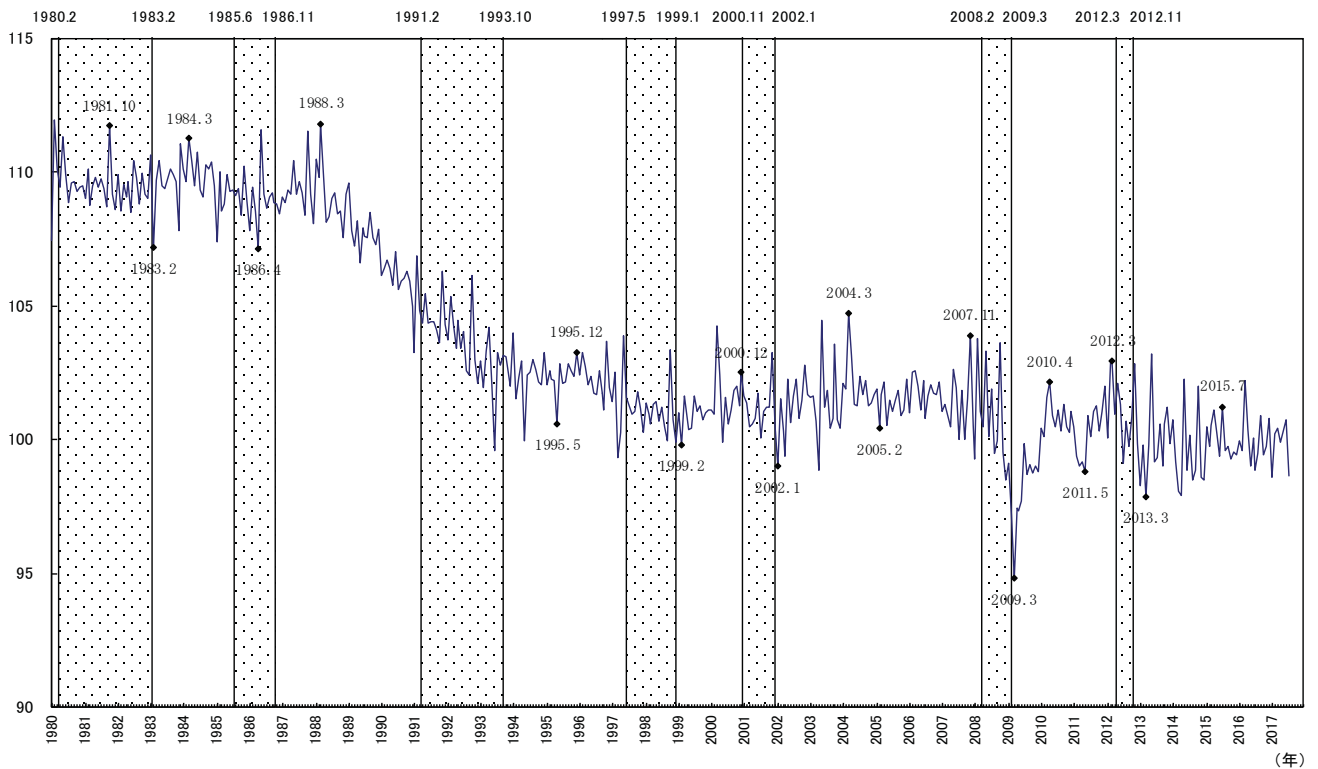


図2 パターン分析

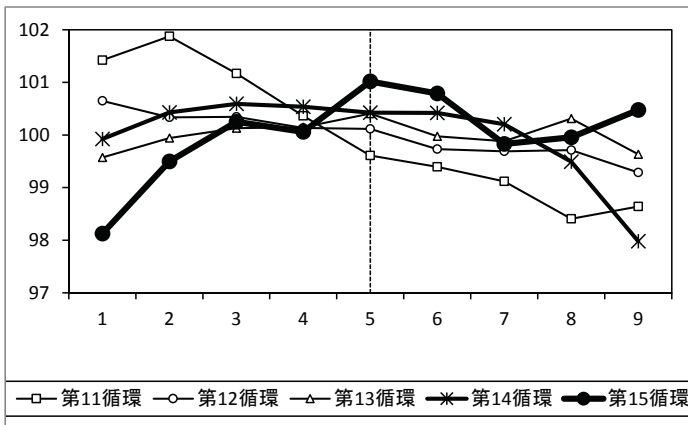


図3 時差相関

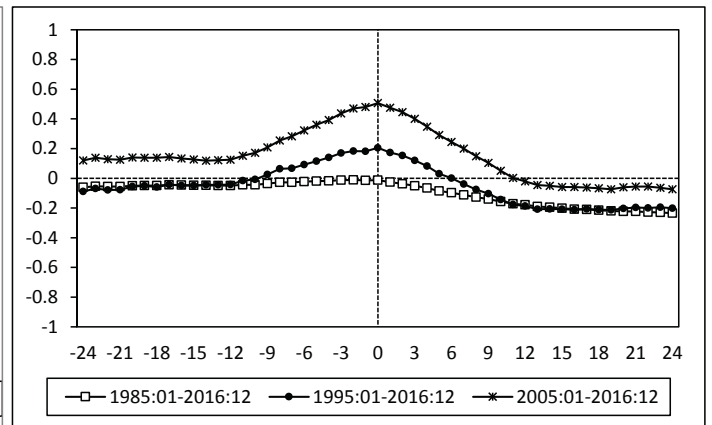


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016:-2 1995-2016:0 2005-2016:0	第10~15循環:+2 第12~15循環:+2	9

1日当たり所定内労働時間

図1 Bry-Boschan法による山谷

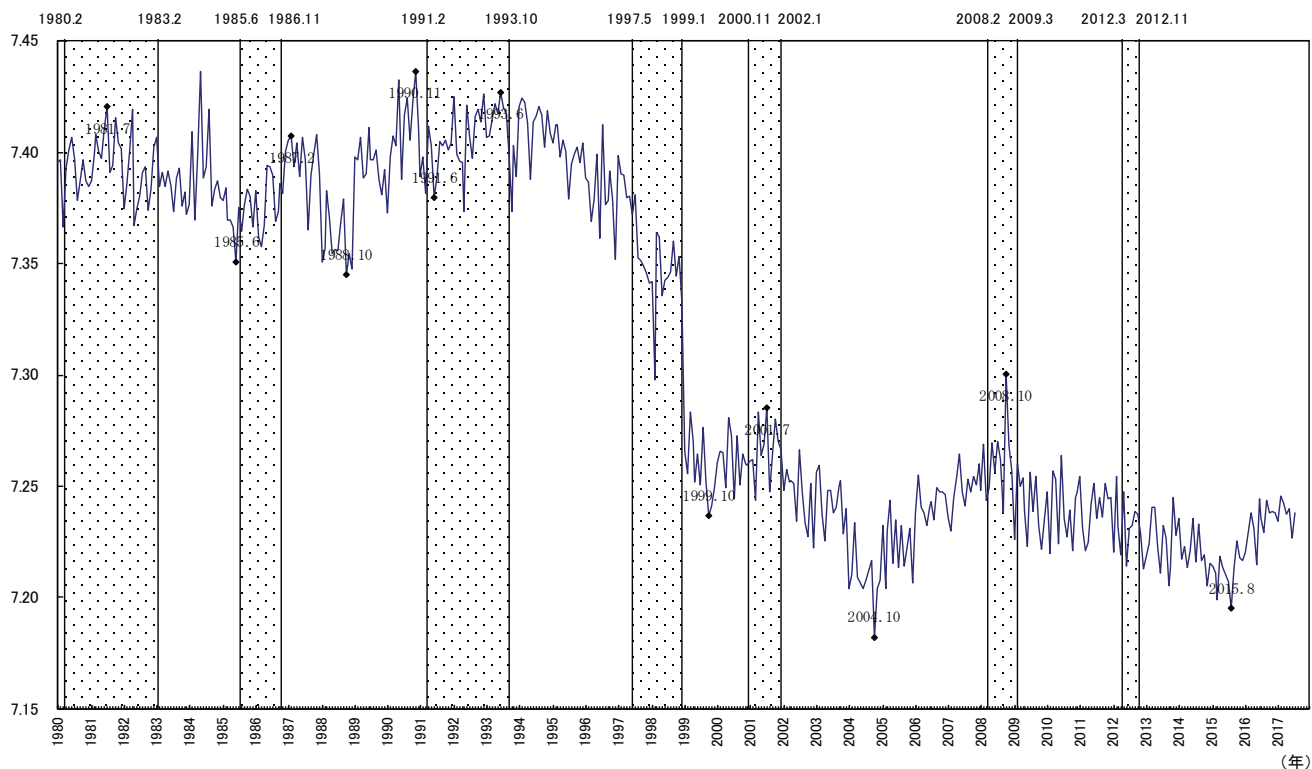


図2 パターン分析

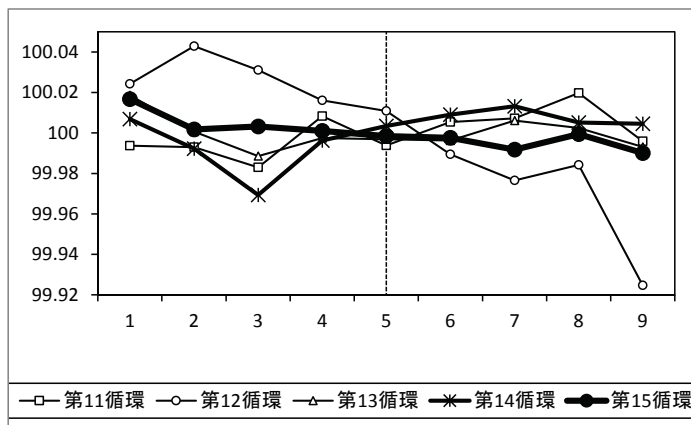


図3 時差相関

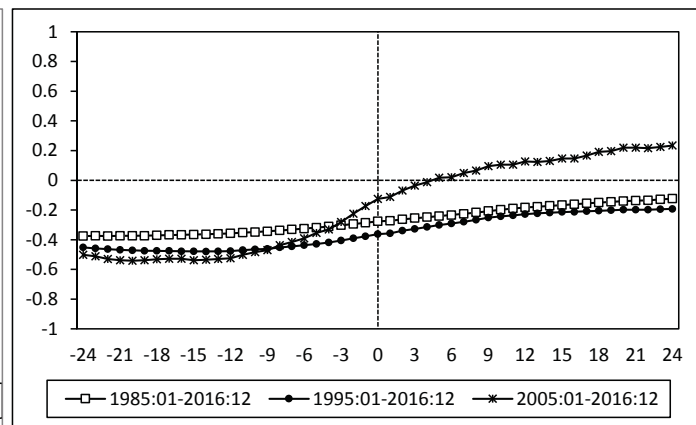


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016: × 1995-2016: × 2005-2016: ×	第10~15循環: -2 第12~15循環: -3	9

1日当たり所定外労働時間

図1 Bry-Boschan法による山谷

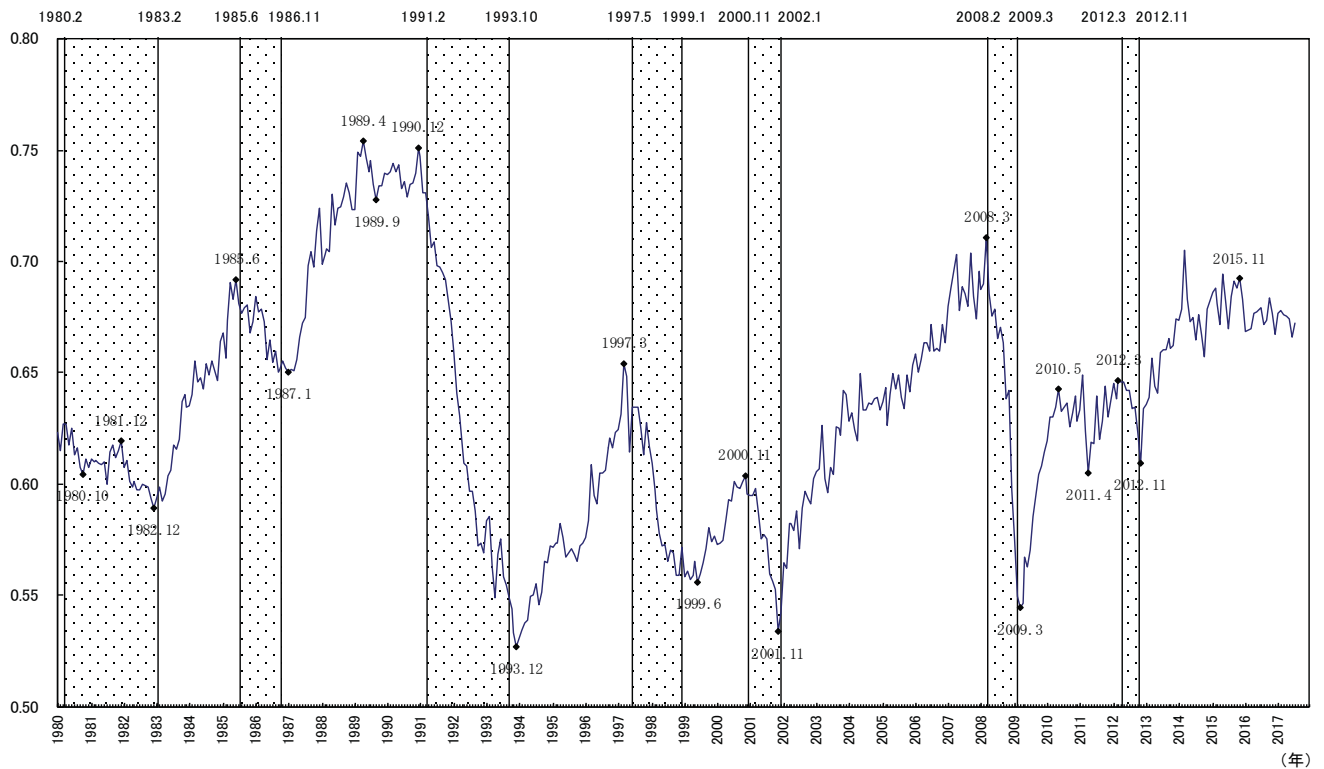


図2 パターン分析

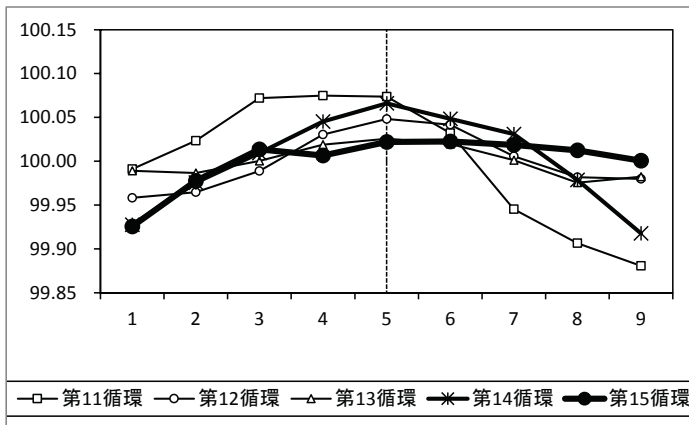


図3 時差相関

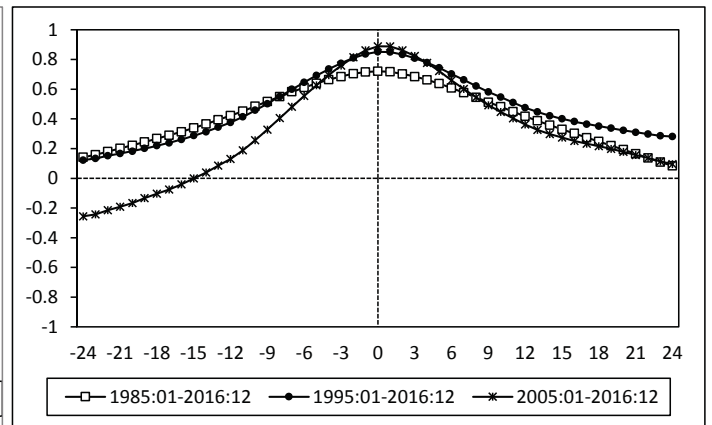


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016:0	第10~15循環:+2 第12~15循環:+1	3
	1995-2016:0		
	2005-2016:0		

1日当たり総実労働時間

図1 Bry-Boschan法による山谷

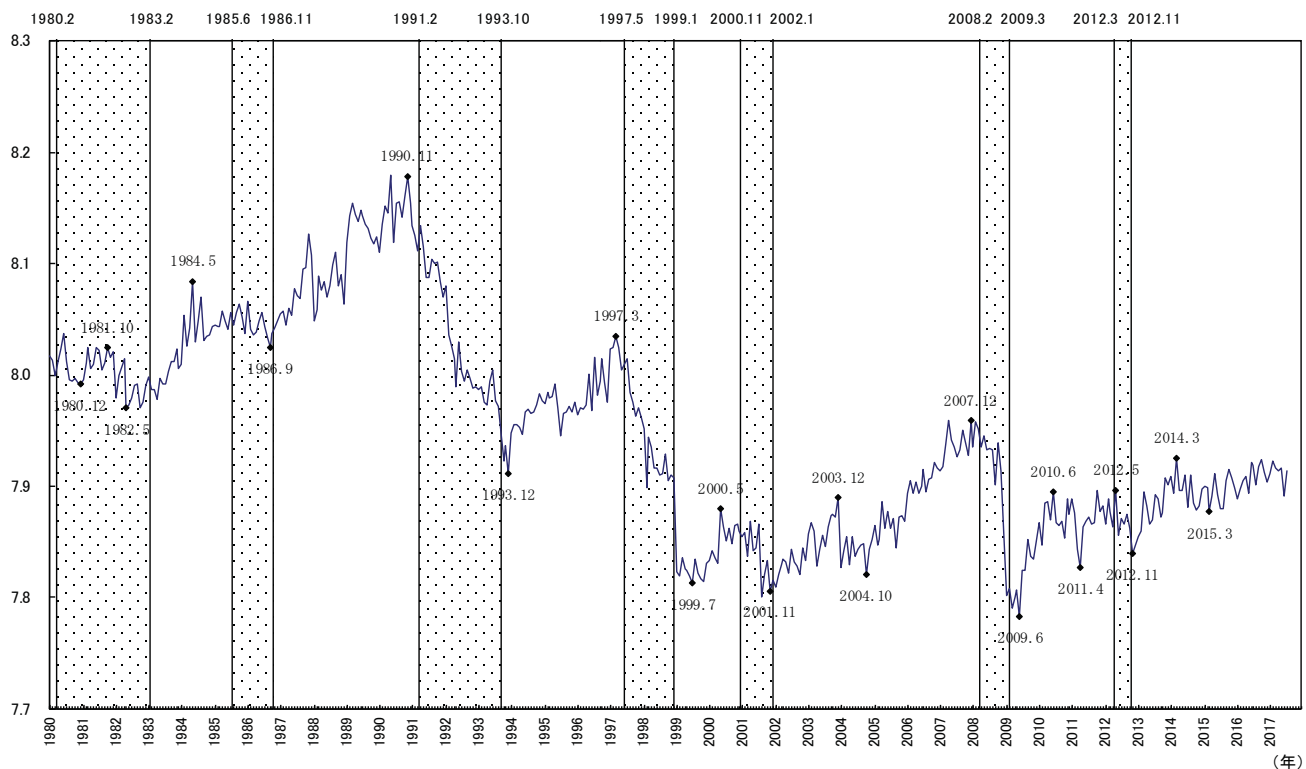


図2 パターン分析

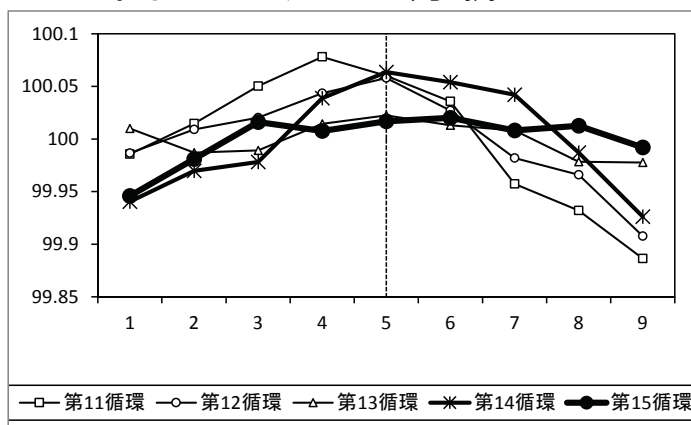


図3 時差相関

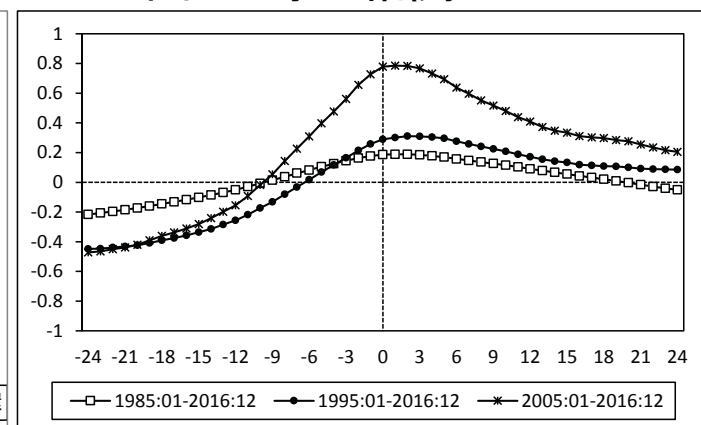


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:+2 1995-2016:+2 2005-2016:+1	第10~15循環:+2 第12~15循環:+2	4

名目現金給与総額__調査産業計

図1 Bry-Boschan法による山谷

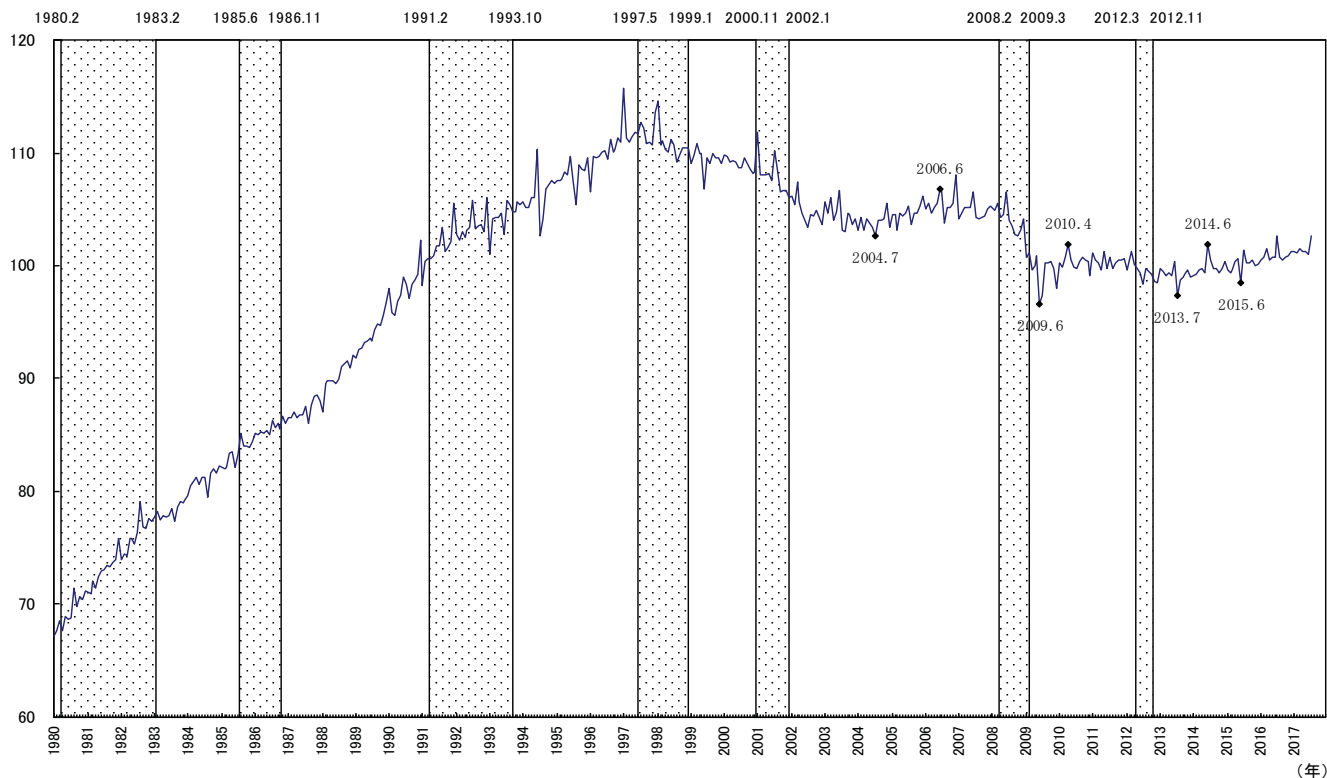


図2 パターン分析

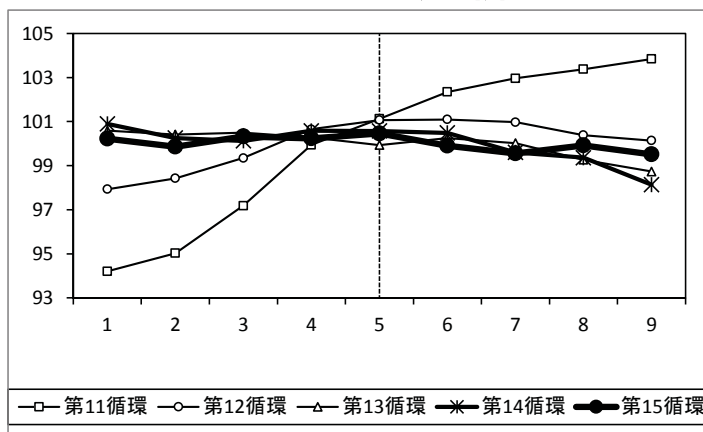


図3 時差相関

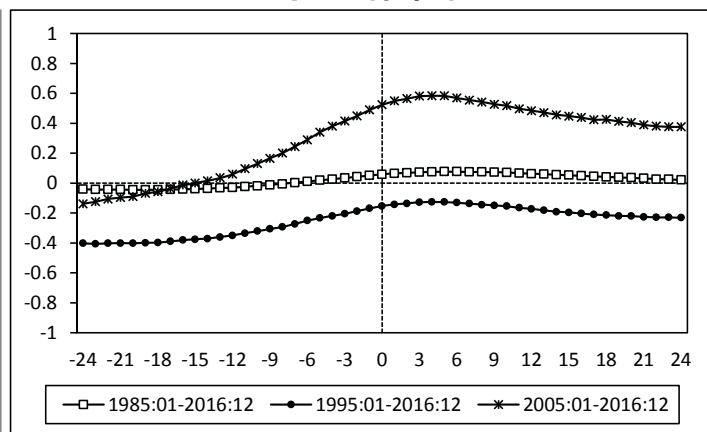


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016: +5 1995-2016: +5 2005-2016: +4	第10~15循環: -5 第12~15循環: -3	5

実質現金給与総額__調査産業計

図1 Bry-Boschan法による山谷

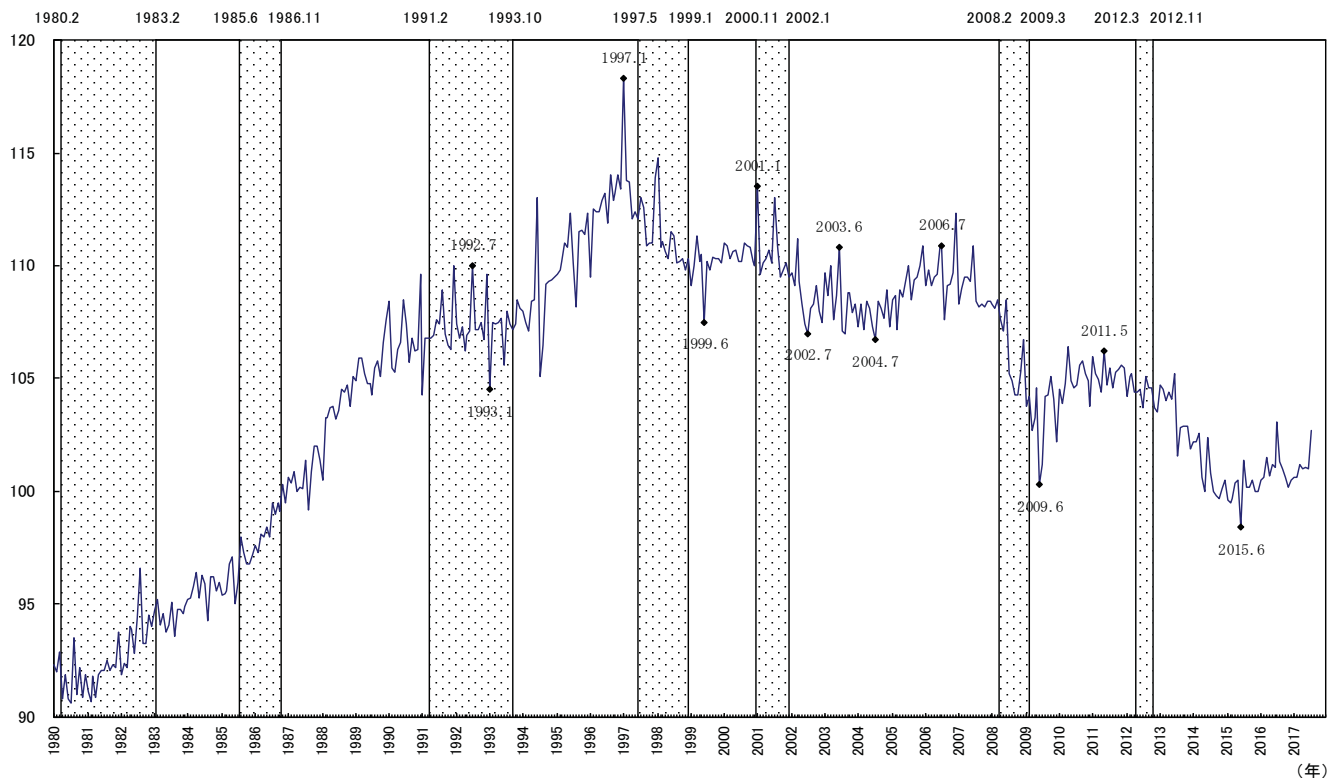


図2 パターン分析

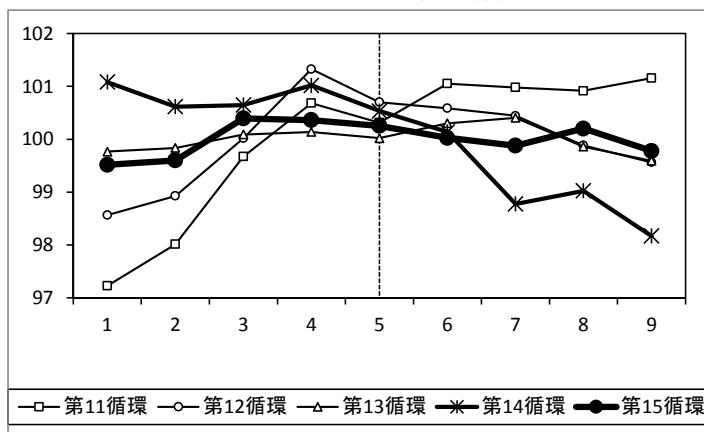


図3 時差相関

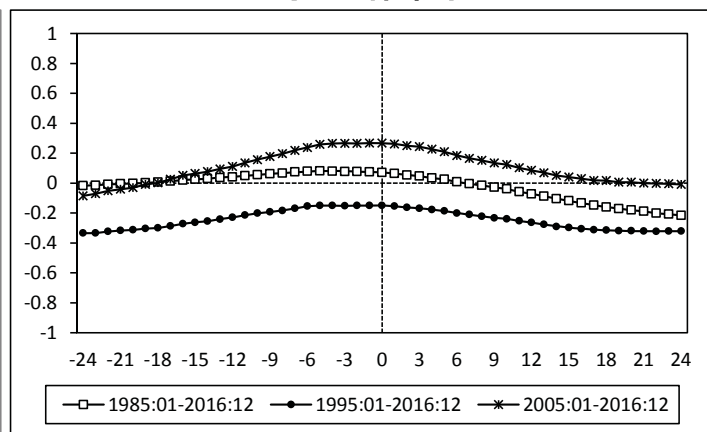


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016:-5 1995-2016:0 2005-2016:-1	第10~15循環:-2 第12~15循環:0	9

実質現金給与総額__製造業

図1 Bry-Boschan法による山谷

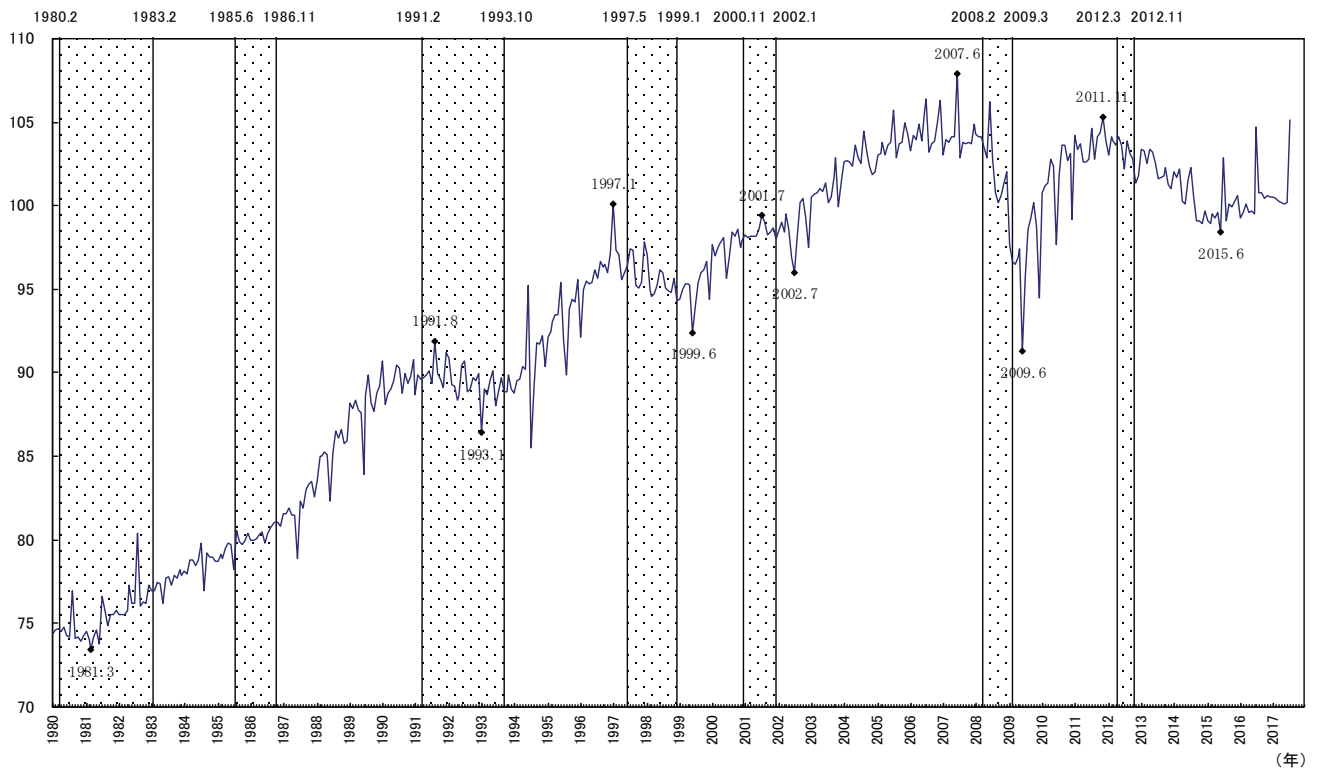


図2 パターン分析

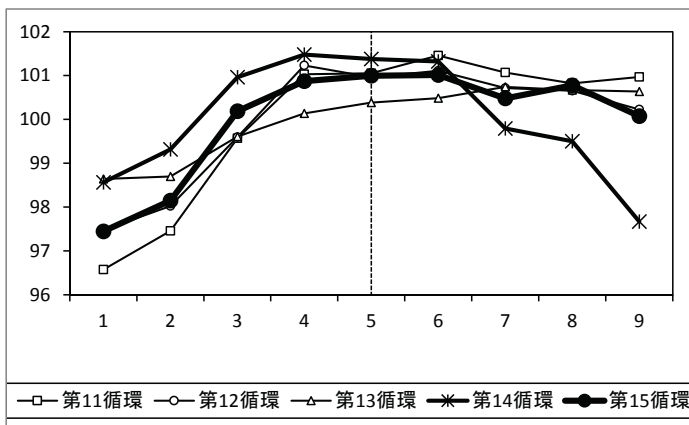


図3 時差相関

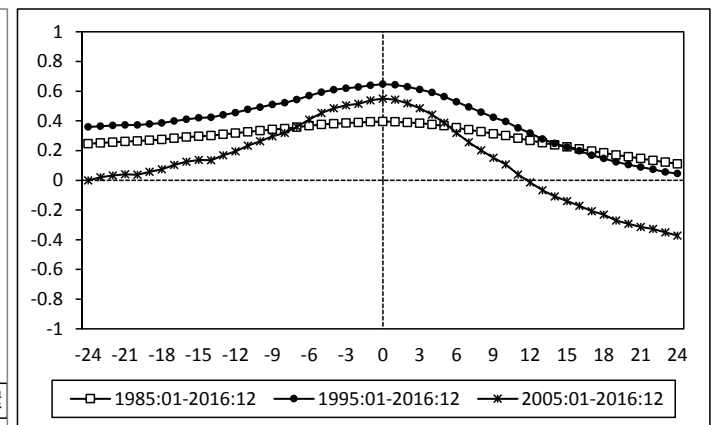


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016:0	第10~15循環:-2 第12~15循環:-1	6
	1995-2016:0		
	2005-2016:0		

名目現金給与総額__調査産業計__一般

図1 Bry-Boschan法による山谷

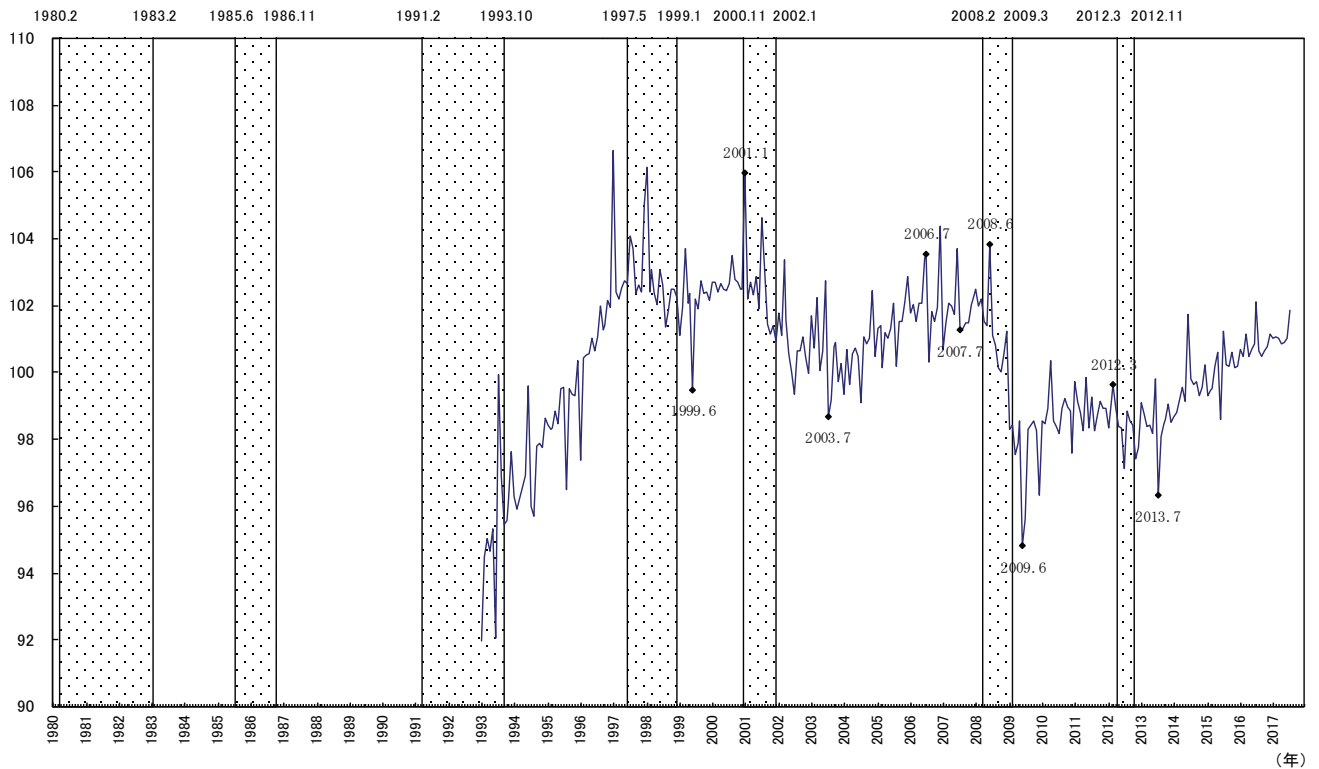


図2 パターン分析

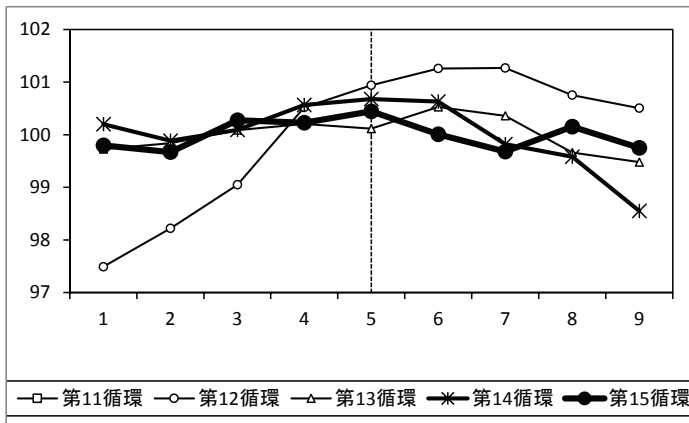


図3 時差相関

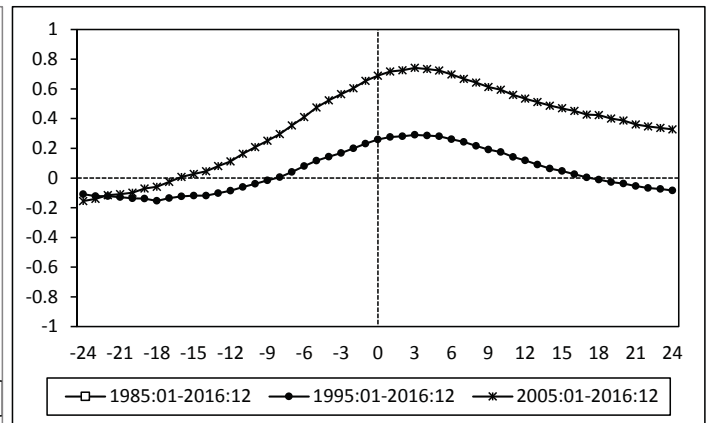


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
遅行	1985-2016: NA 1995-2016: +3 2005-2016: +3	第10~15循環: -1 第12~15循環: -1	9

名目現金給与総額__調査産業計__パート

図1 Bry-Boschan法による山谷

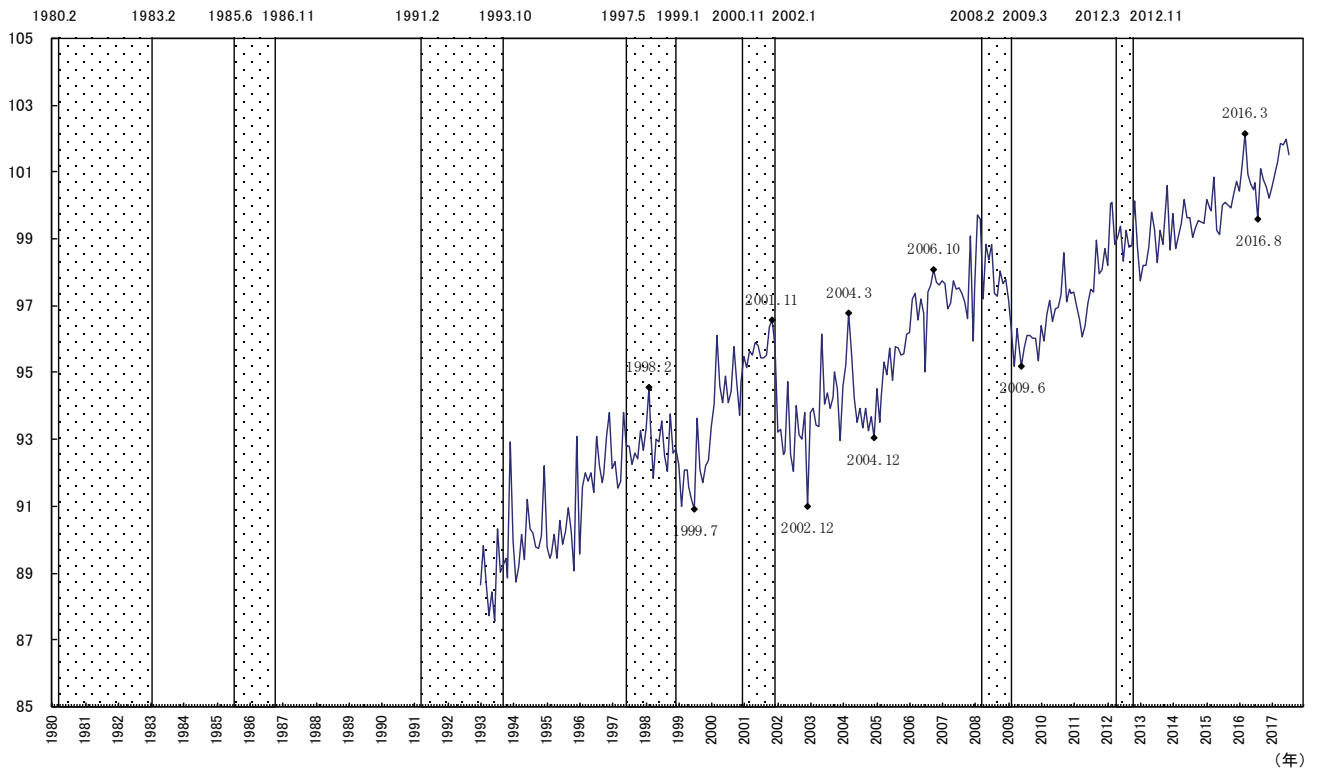


図2 パターン分析

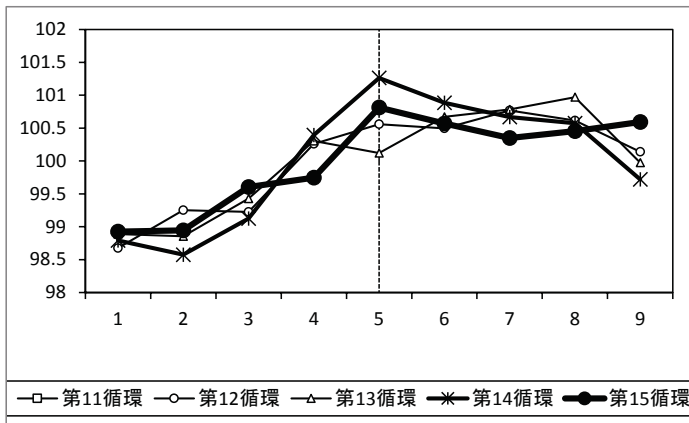


図3 時差相関

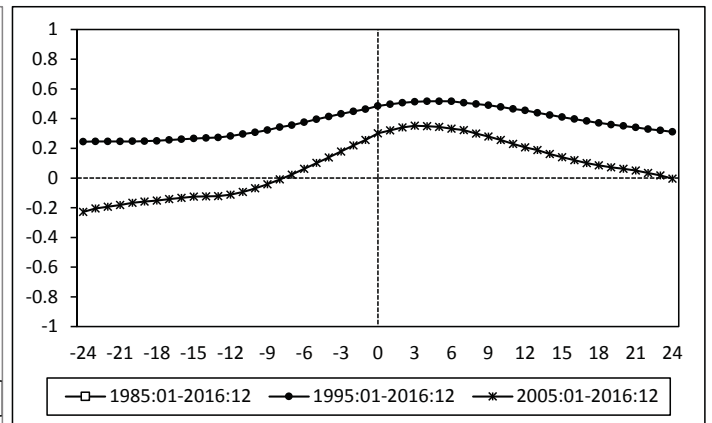


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
遅行	1985-2016: NA 1995-2016: +5 2005-2016: +3	第10~15循環: -1 第12~15循環: -1	6

名目定期給与__調査産業計

図1 Bry-Boschan法による山谷

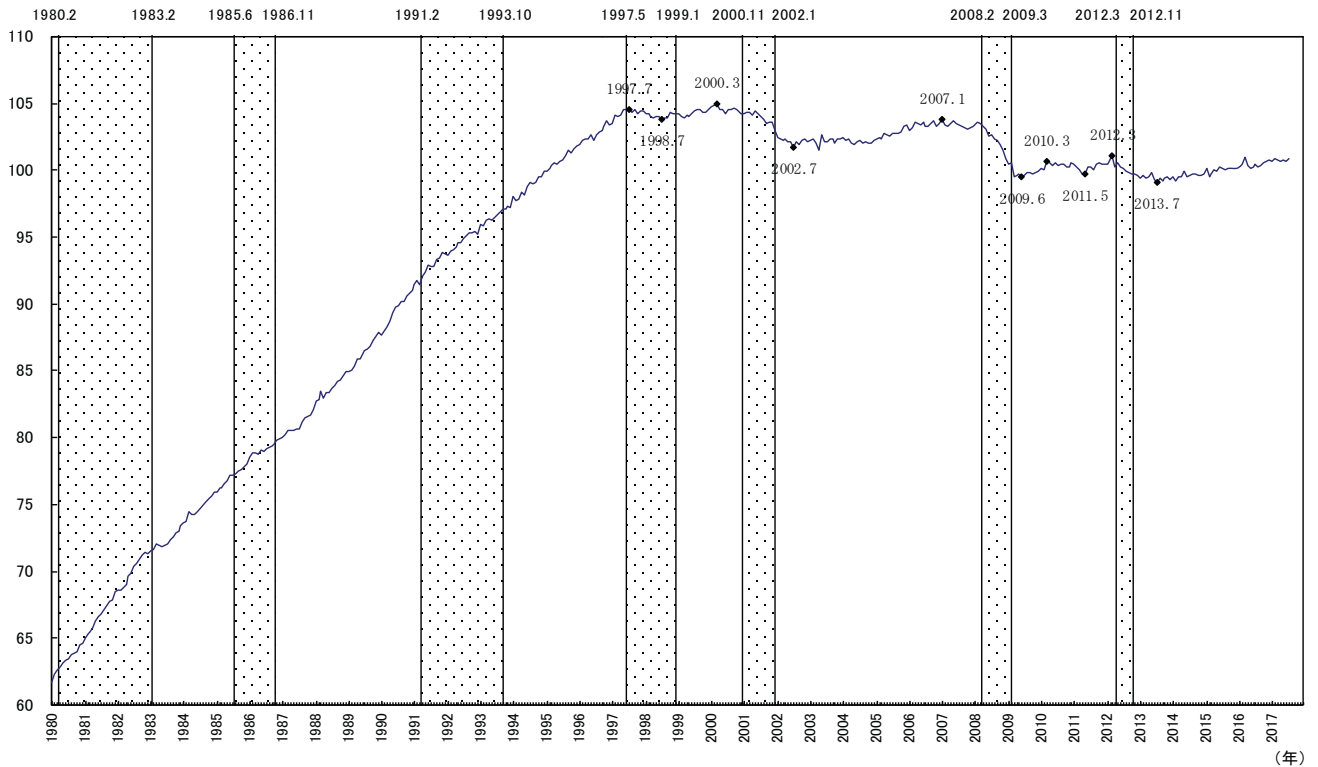


図2 パターン分析

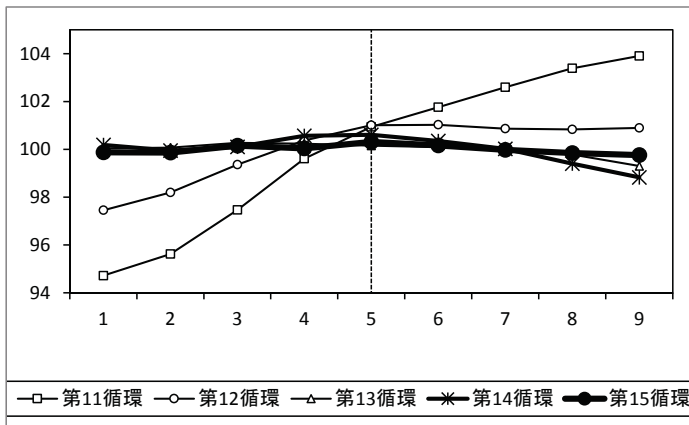


図3 時差相関

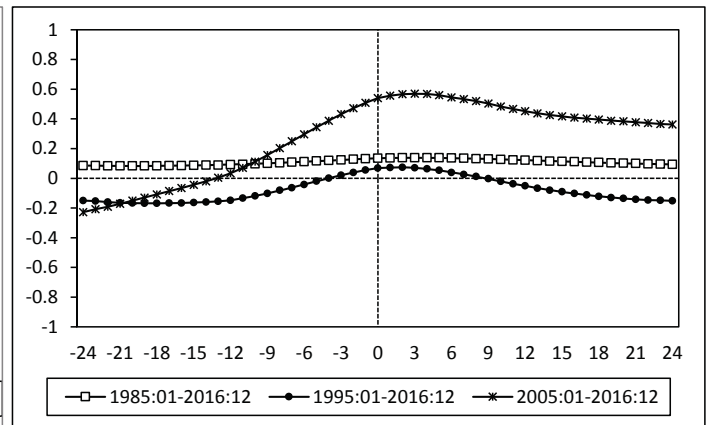


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
遅行	1985-2016:+4	第10~15循環:-3 第12~15循環:-1	2
	1995-2016:+2		
	2005-2016:+3		

実質定期給与__調査産業計

図1 Bry-Boschan法による山谷

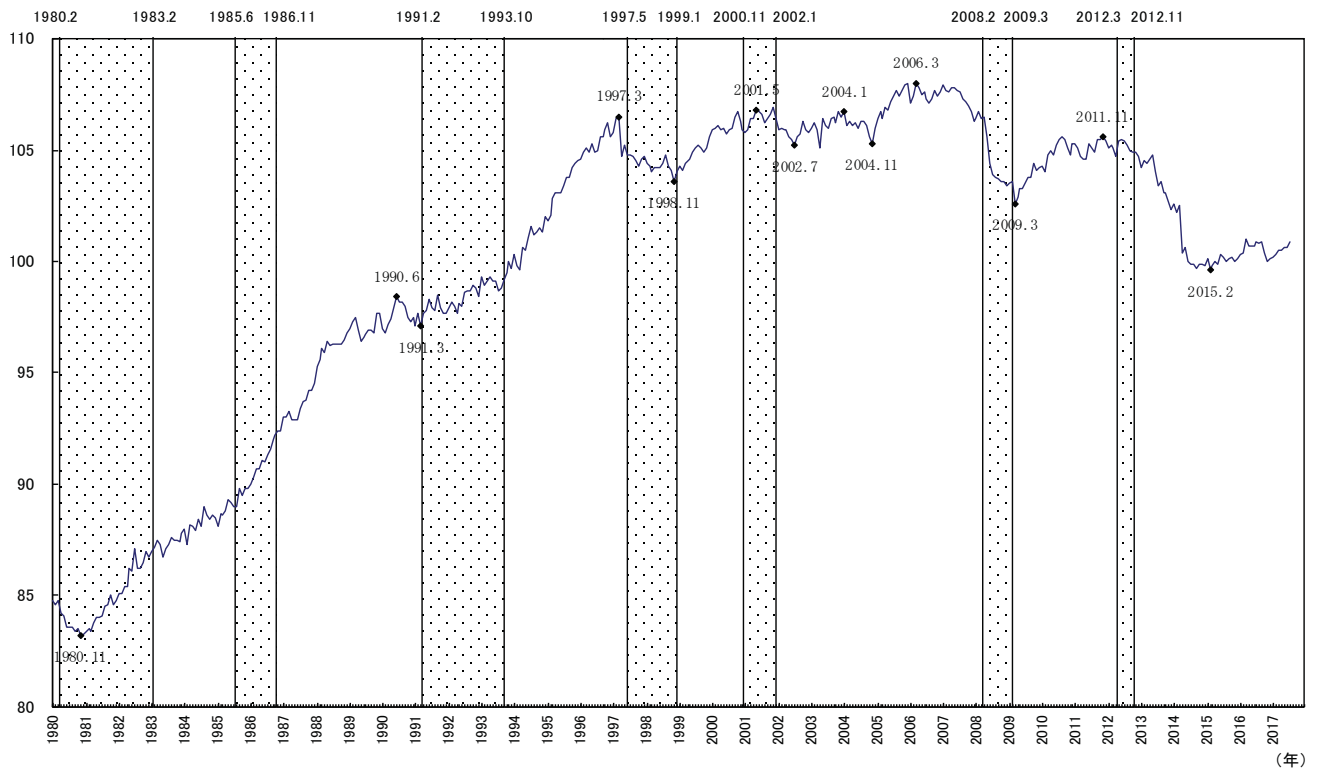


図2 パターン分析

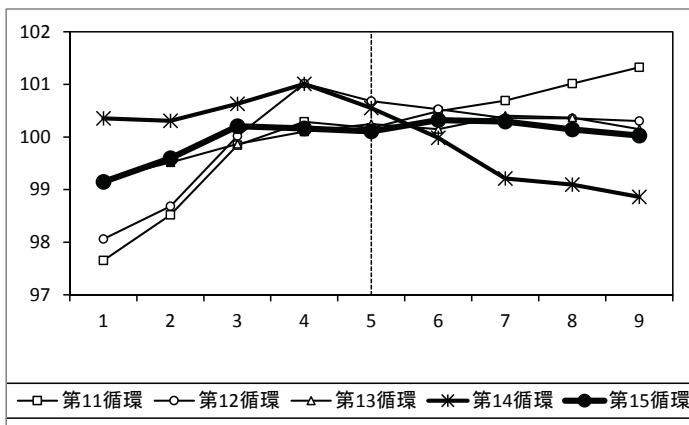


図3 時差相関

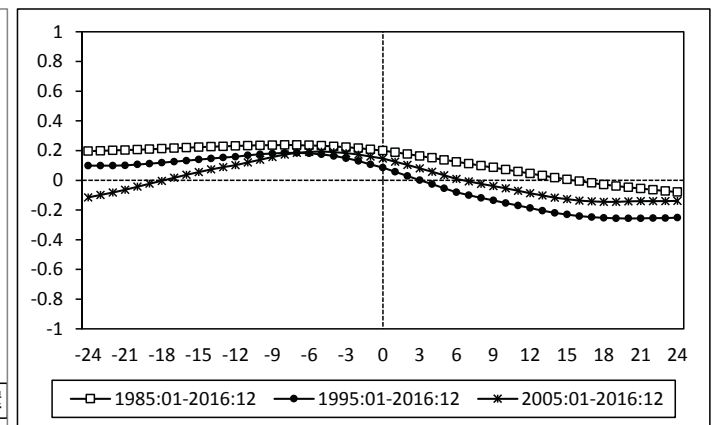


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
先行	1985-2016:-8 1995-2016:-7 2005-2016:-5	第10~15循環:-1 第12~15循環:-1	3

所定外給与__調査産業計

図1 Bry-Boschan法による山谷

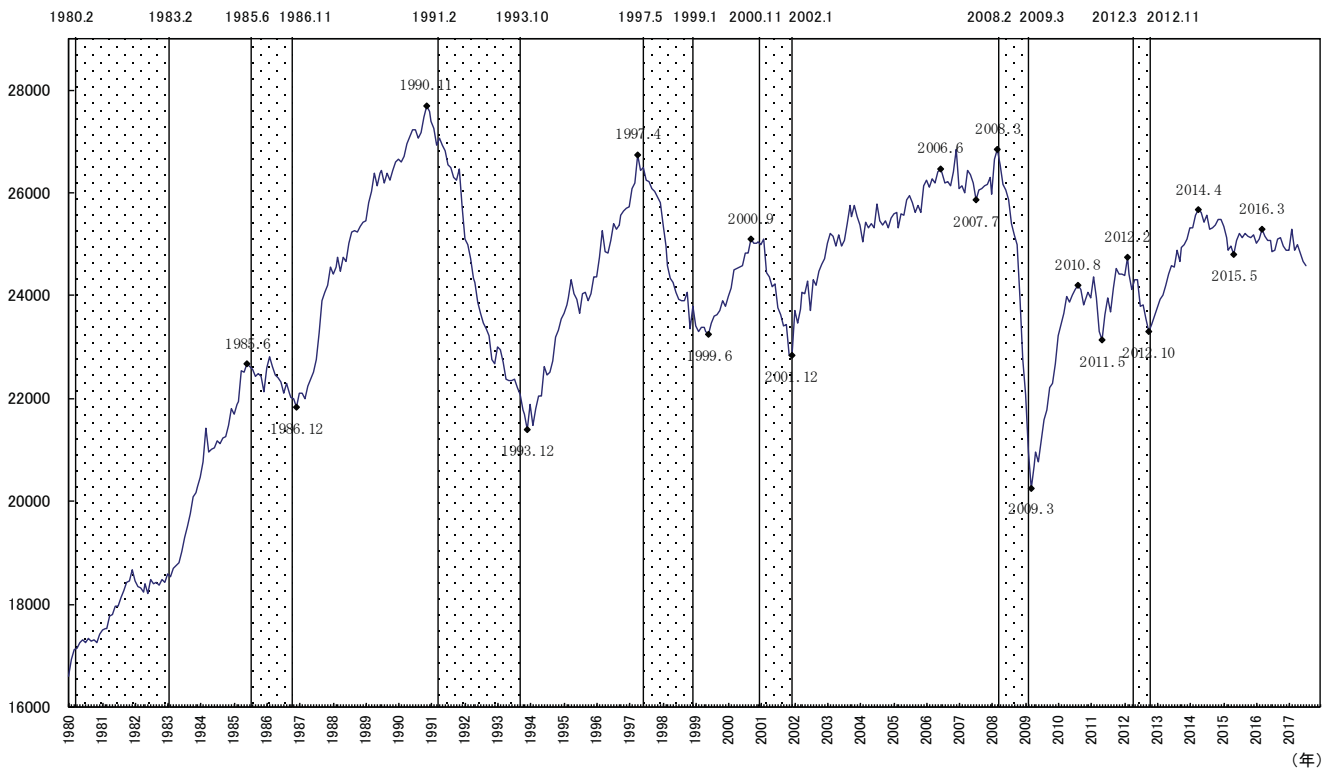


図2 パターン分析

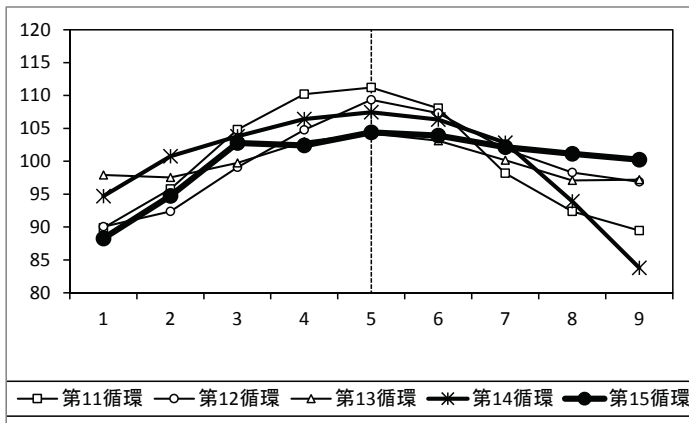


図3 時差相関

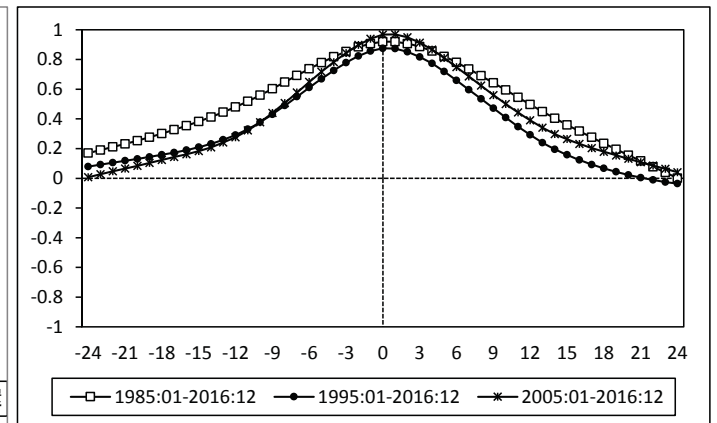


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016:0	第10~15循環:+1 第12~15循環:+2	2
	1995-2016:0		
	2005-2016:+1		

所定外給与__製造業

図1 Bry-Boschan法による山谷

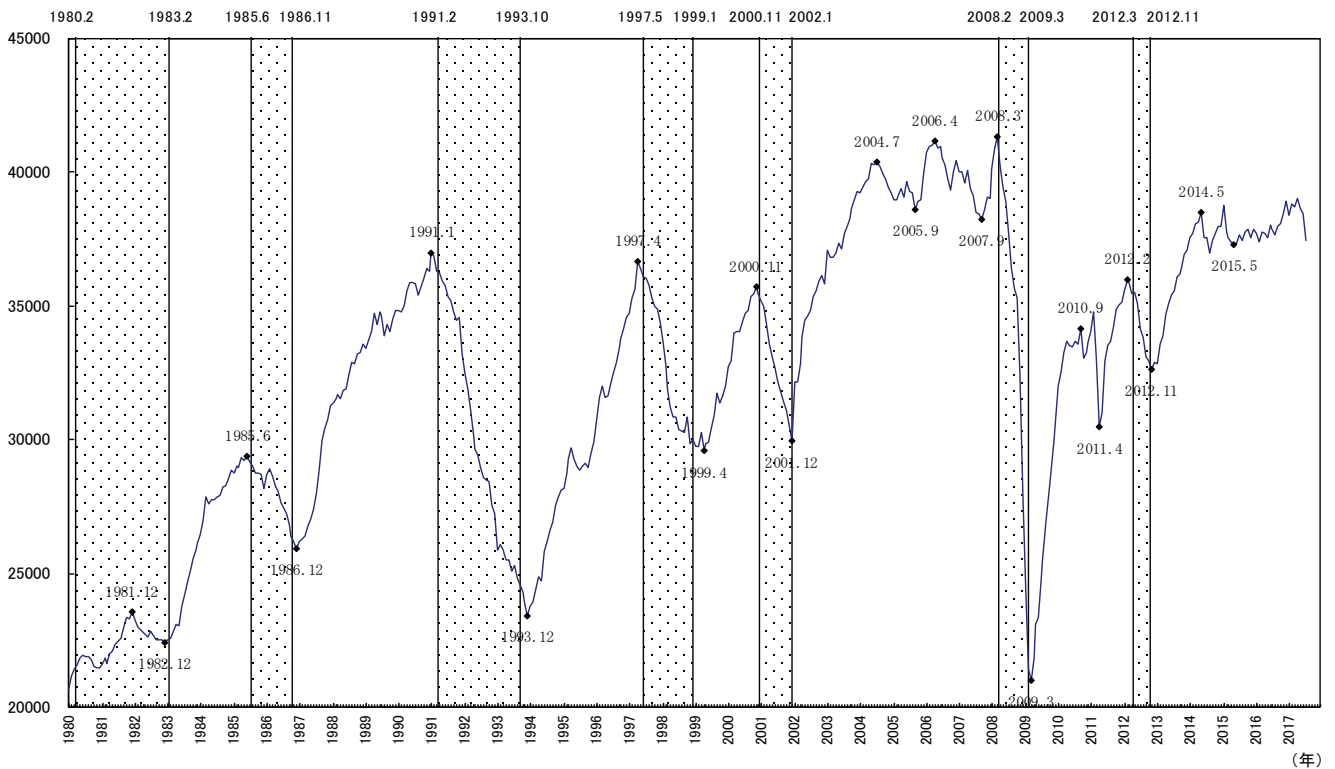


図2 パターン分析

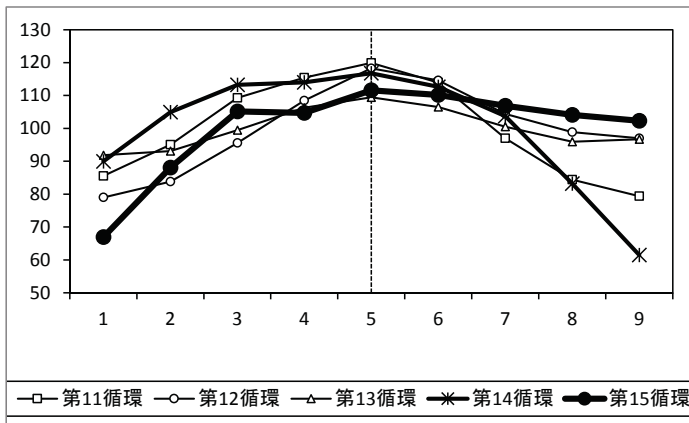


図3 時差相関

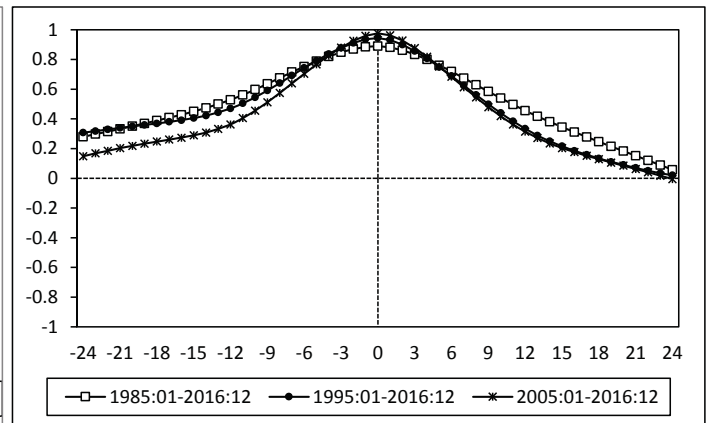


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016:0	第10~15循環:+3 第12~15循環:+3	1
	1995-2016:0		
	2005-2016:0		

所定内給与__パート時間当たり

図1 Bry-Boschan法による山谷

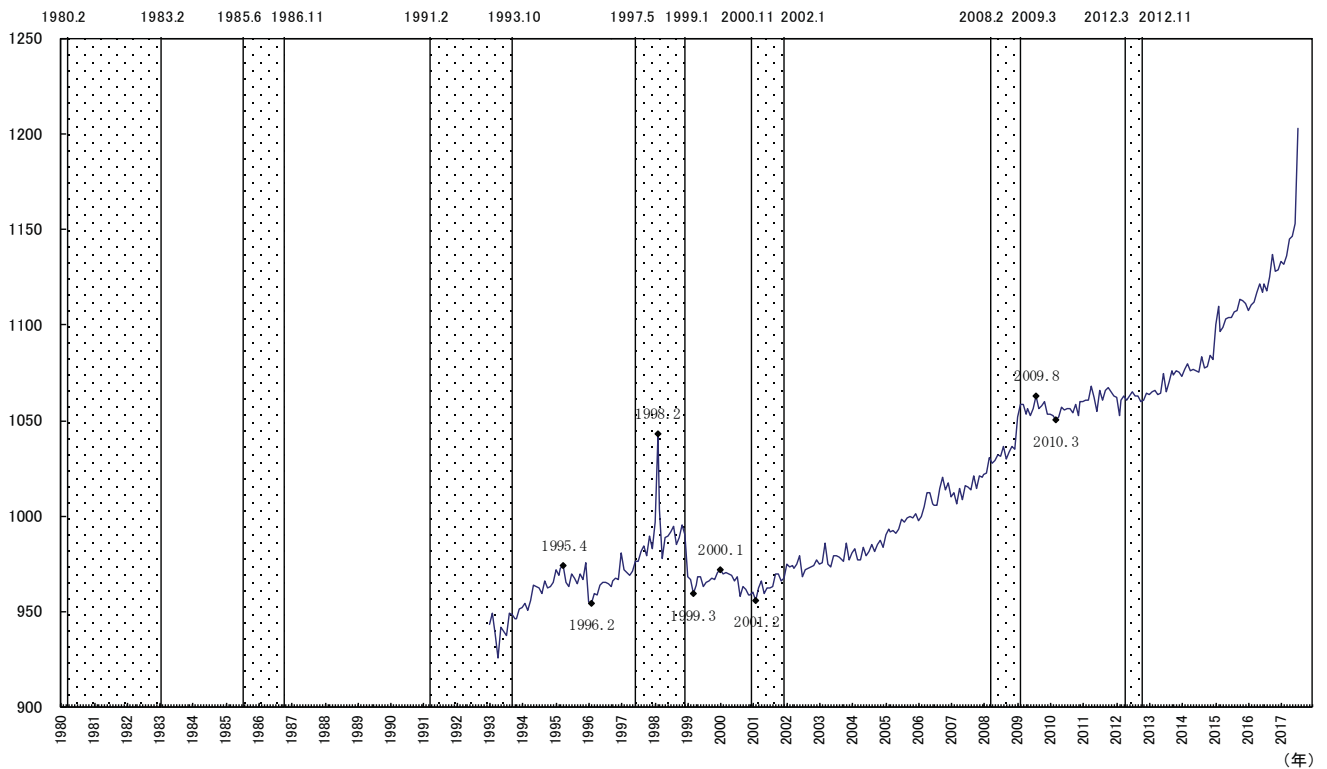


図2 パターン分析

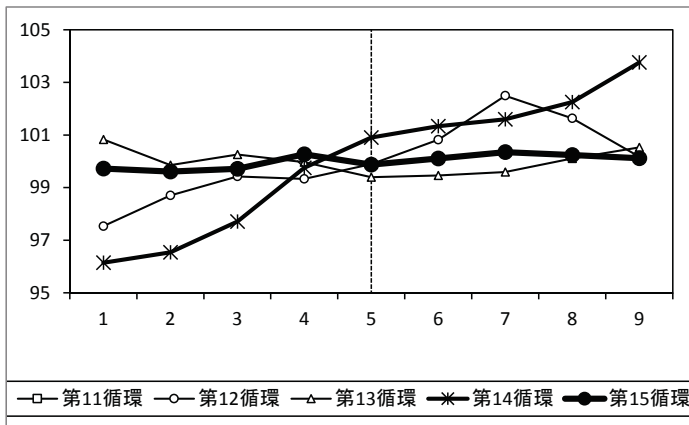


図3 時差相関

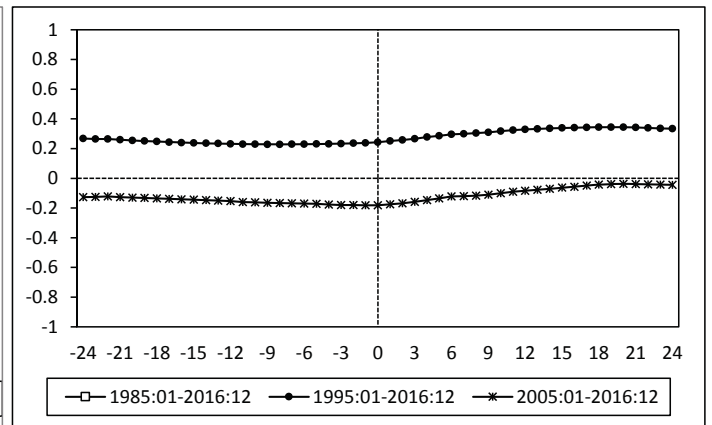


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016: NA 1995-2016: +19 2005-2016: +20	第10～15循環: -1 第12～15循環: -1	4

雇用者数

図1 Bry-Boschan法による山谷

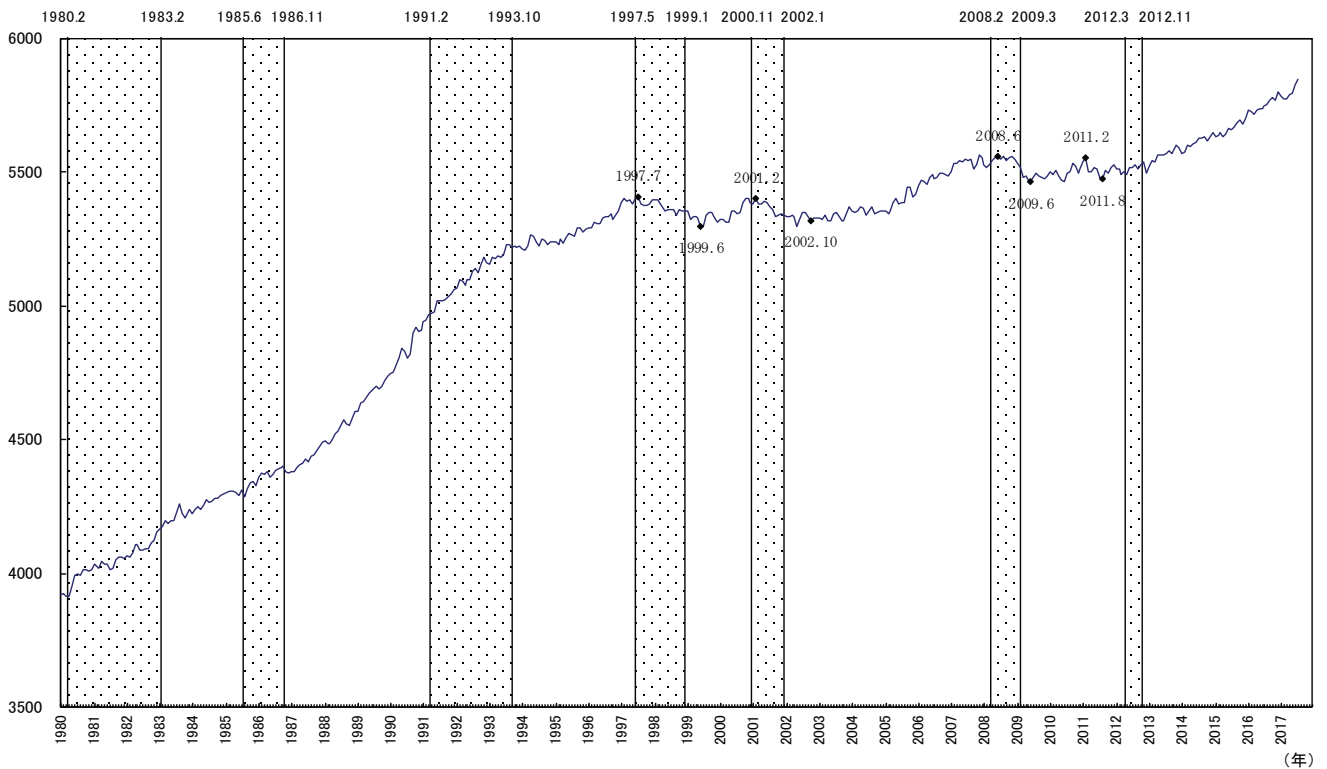


図2 パターン分析

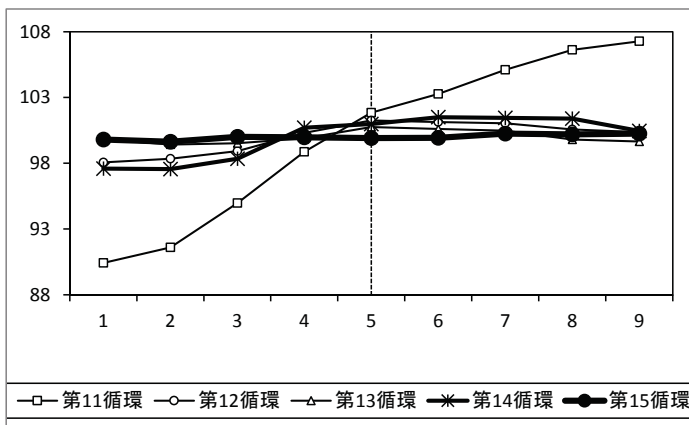


図3 時差相関

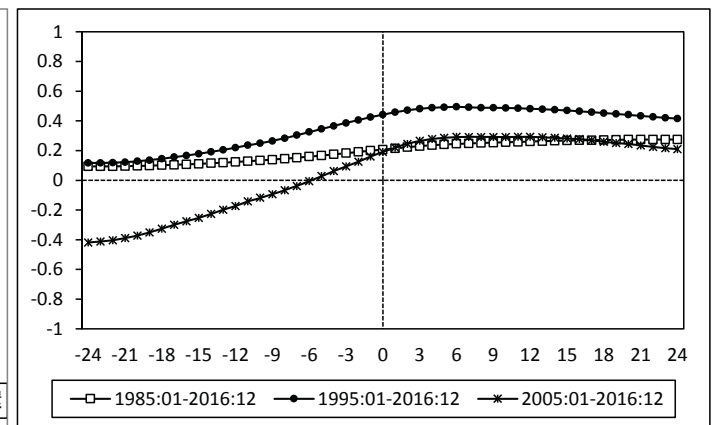


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
遅行	1985-2016: × 1995-2016: +6 2005-2016: +12	第10～15循環: -3 第12～15循環: -1	3

就業者数

図1 Bry-Boschan法による山谷

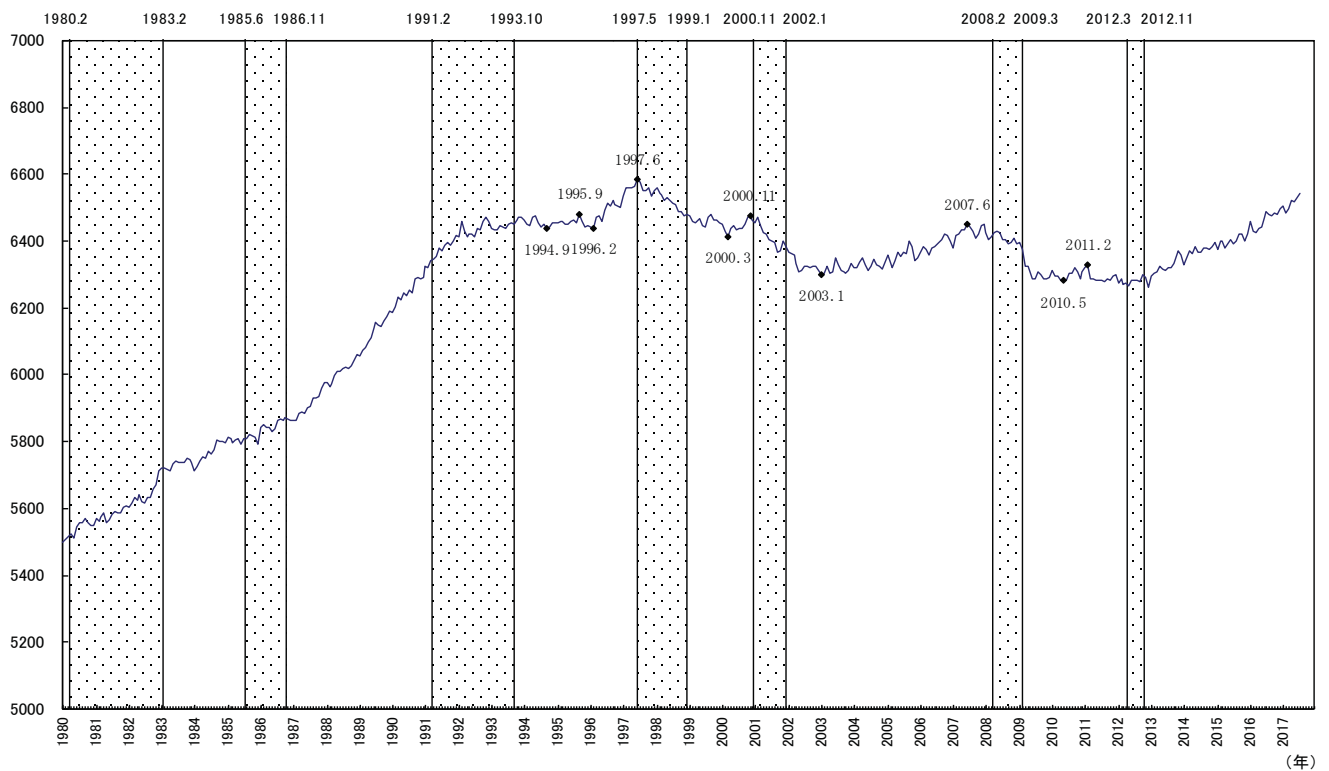


図2 パターン分析

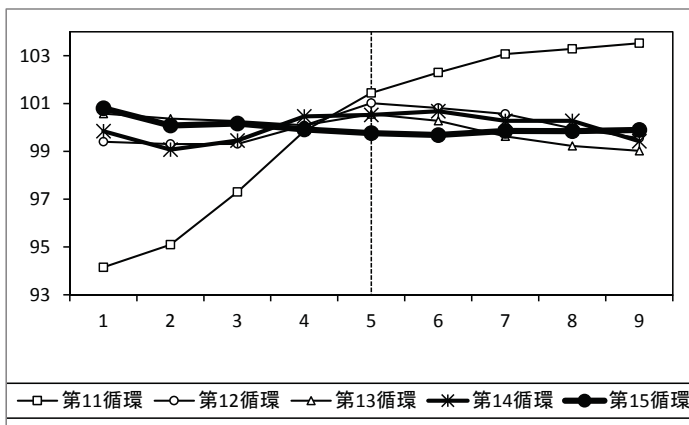


図3 時差相関

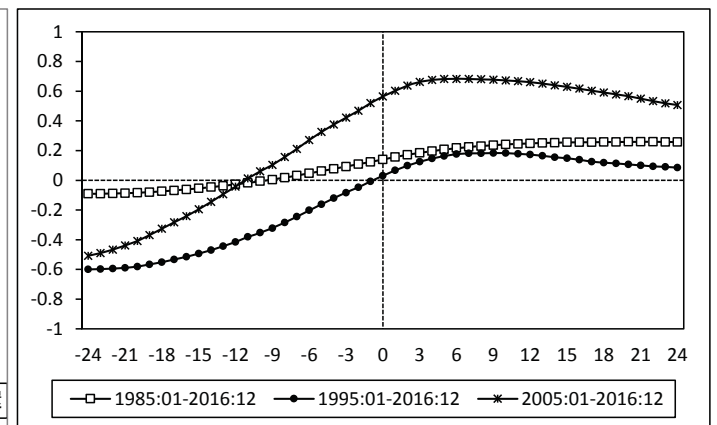


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
遅行	1985-2016: +20 1995-2016: +9 2005-2016: +6	第10~15循環: -2 第12~15循環: 0	3

有効求人倍率(除くパート)

図1 Bry-Boschan法による山谷

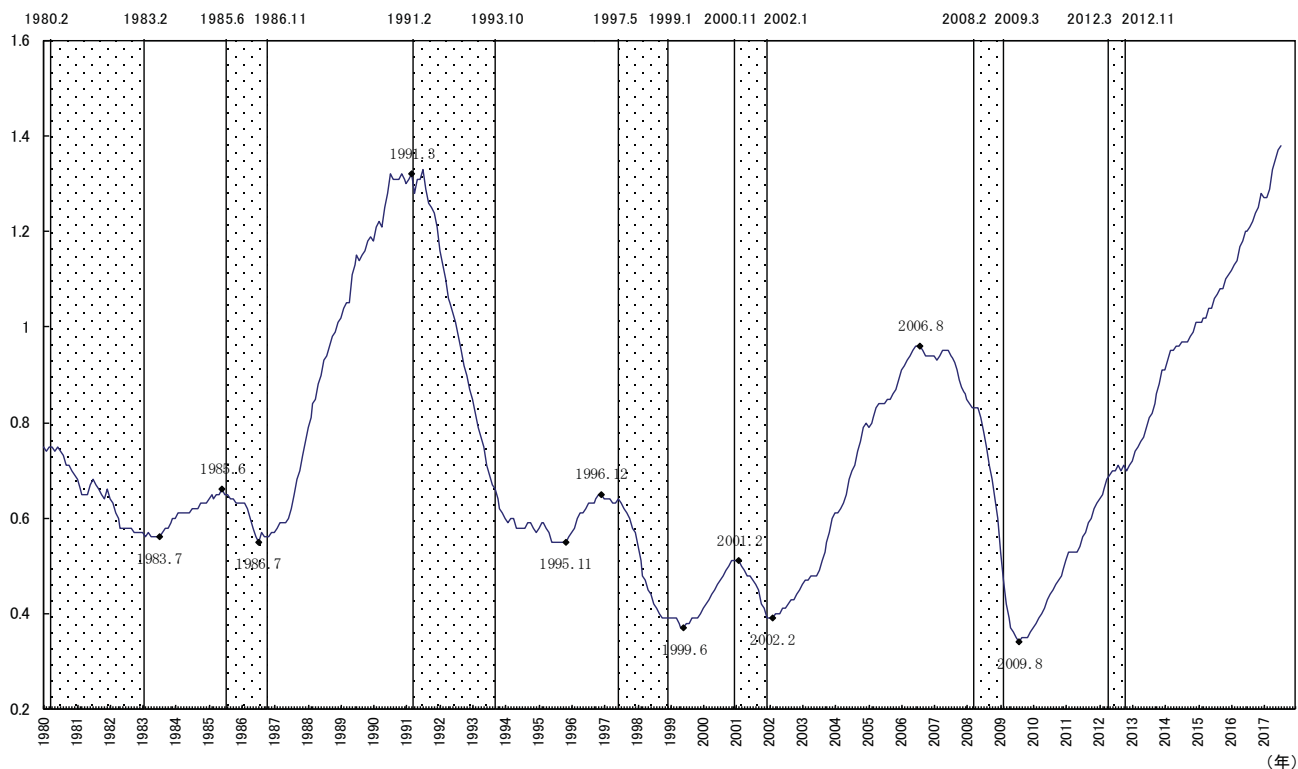


図2 パターン分析

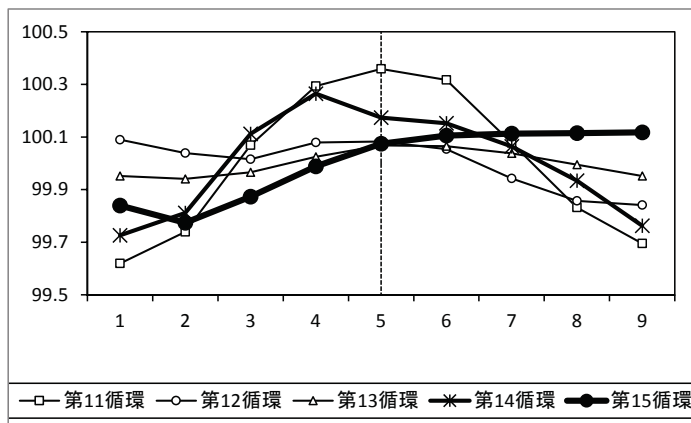


図3 時差相関

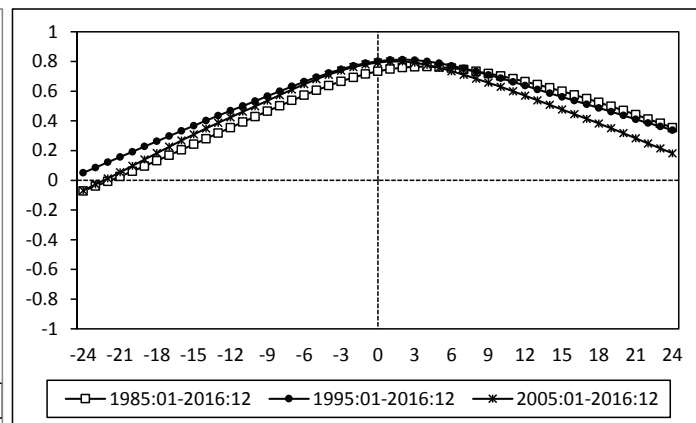


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016:+4 1995-2016:+2 2005-2016:+1	第10~15循環:-1 第12~15循環:-1	1

有効求人倍率(パート)

図1 Bry-Boschan法による山谷

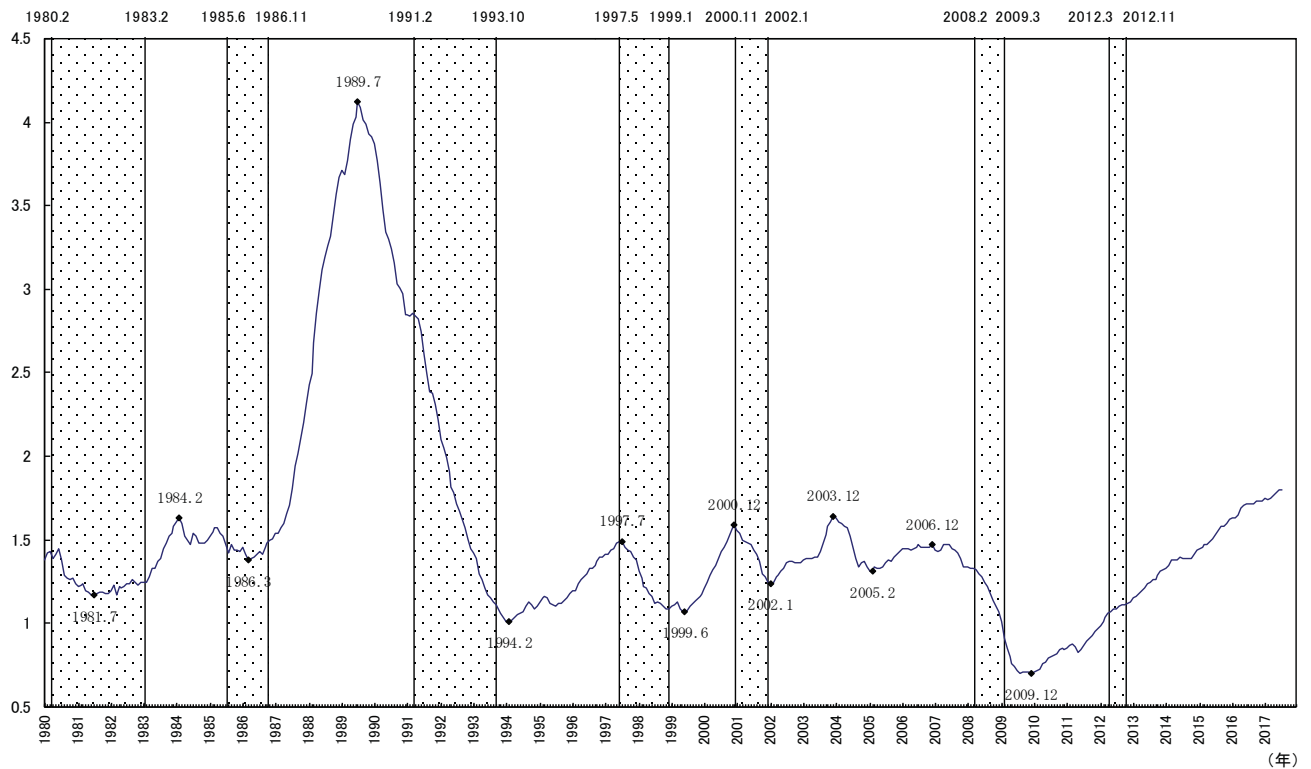


図2 パターン分析

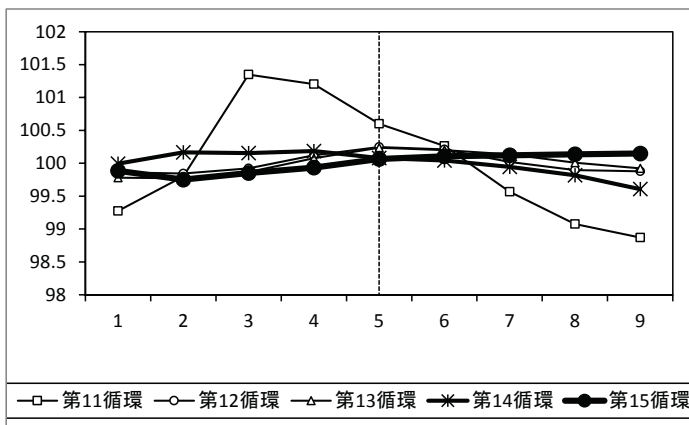


図3 時差相関

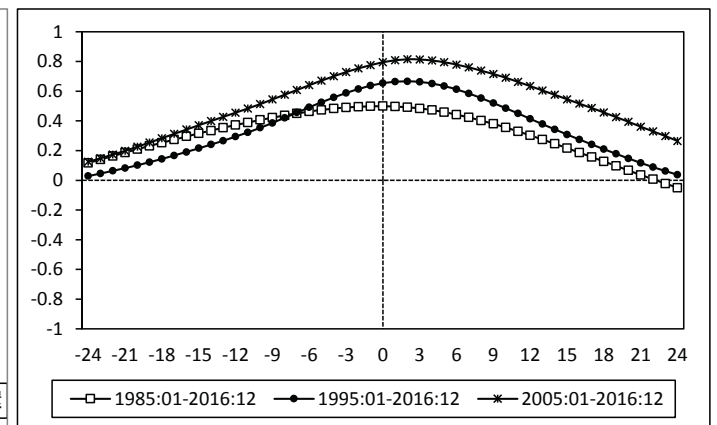


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016:0	第10~15循環:0 第12~15循環:0	1
	1995-2016:+2		
	2005-2016:+2		

有効求人倍率(正社員)

図1 Bry-Boschan法による山谷

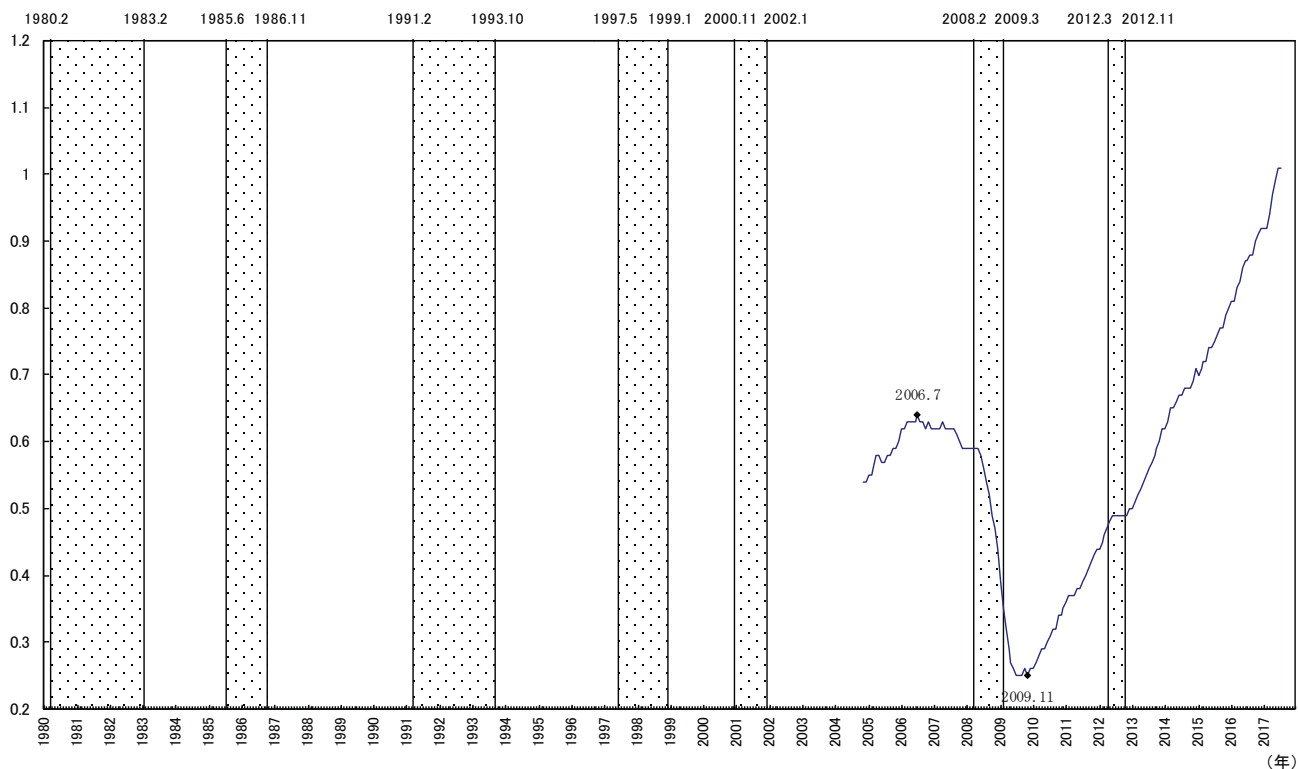


図2 パターン分析

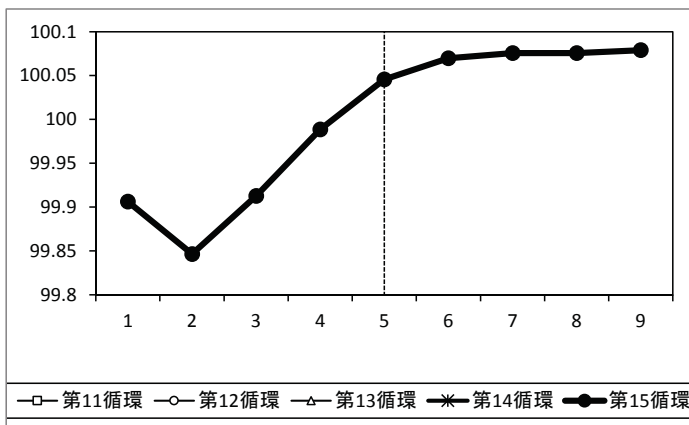


図3 時差相関

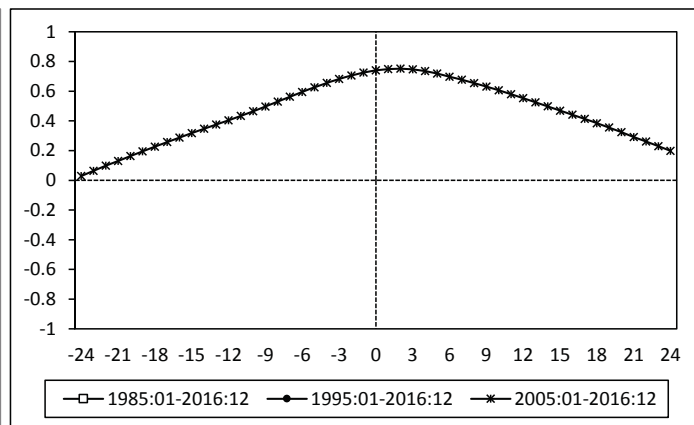


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016: NA 1995-2016: NA 2005-2016: +2	第10~15循環: -1 第12~15循環: -1	1

有効求人倍率(除く介護・建設)

図1 Bry-Boschan法による山谷

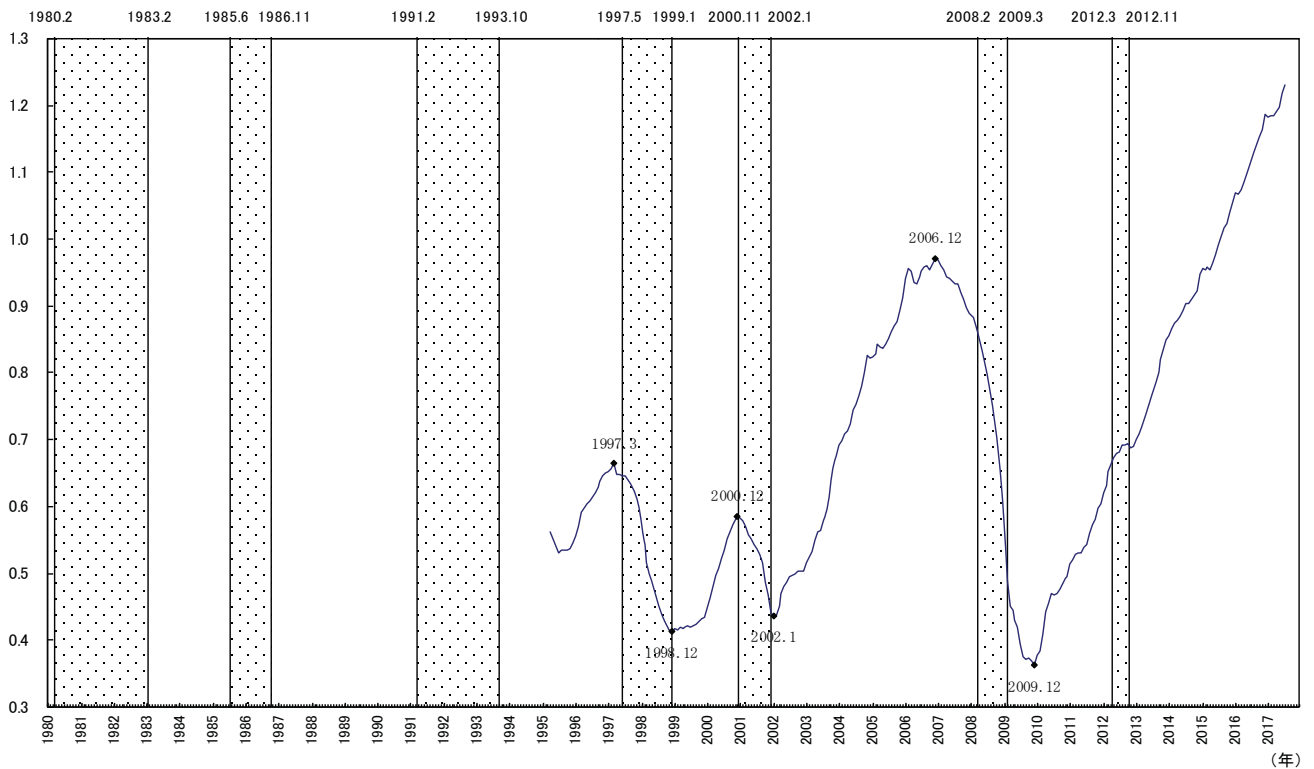


図2 パターン分析

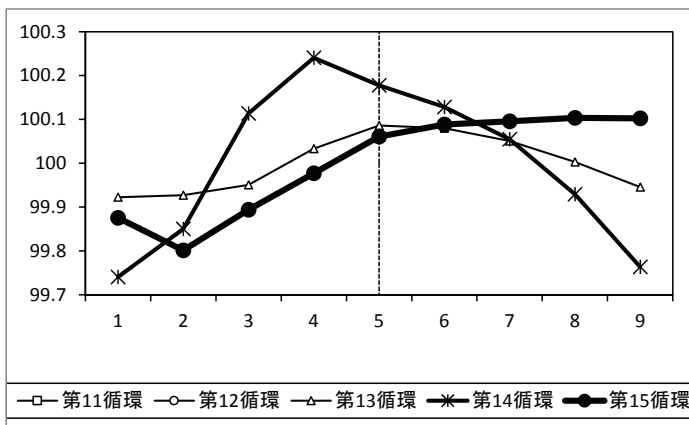


図3 時差相関

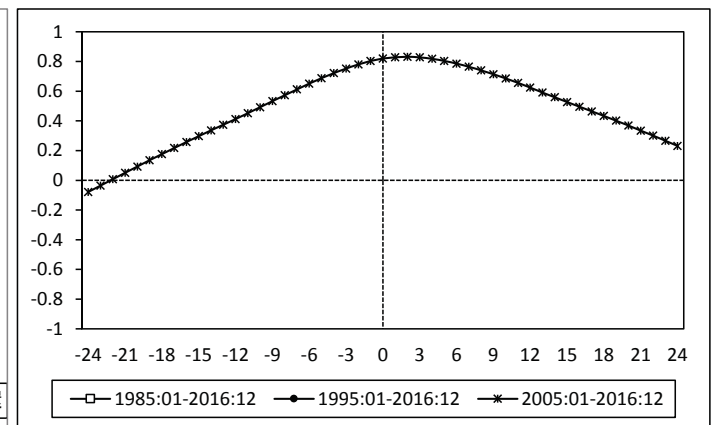


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2016: NA 1995-2016: NA 2005-2016: +2	第10~15循環: -1 第12~15循環: -1	1

有効求人倍率・生産工程(常用(含むパート))

図1 Bry-Boschan法による山谷

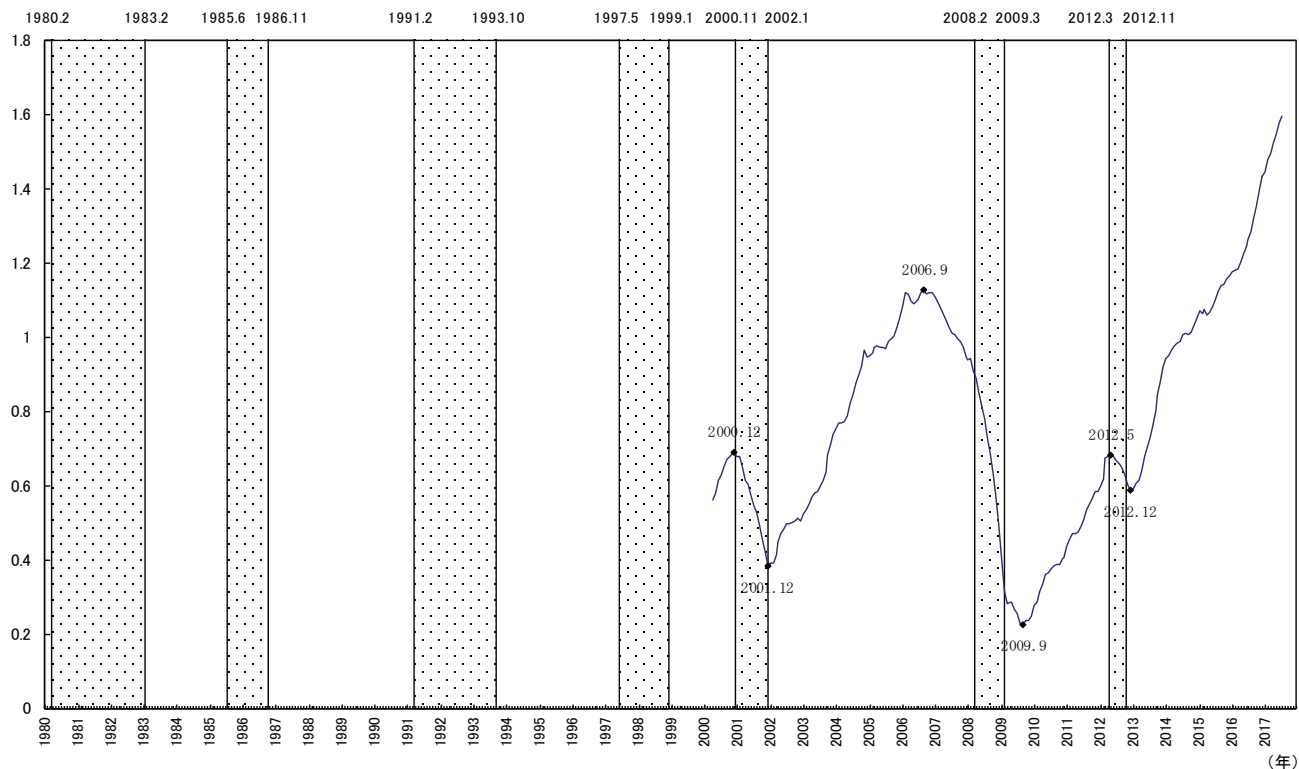


図2 パターン分析

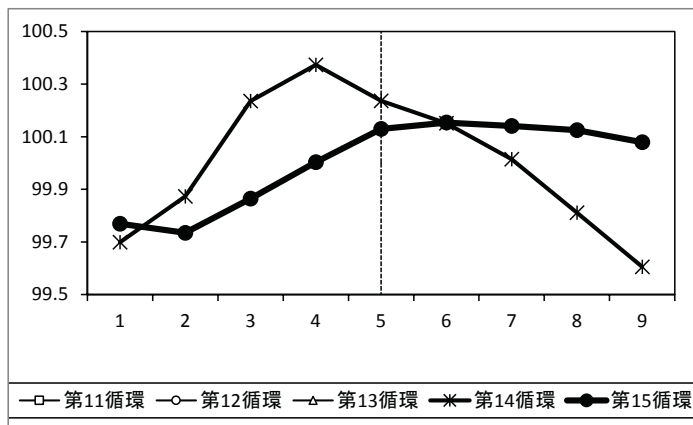


図3 時差相関

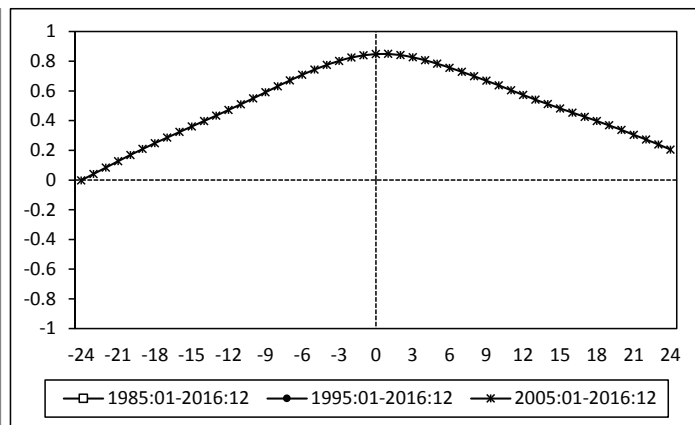


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016: NA 1995-2016: NA 2005-2016: +1	第10~15循環: 0 第12~15循環: 0	1

有効求人倍率・運搬(常用(含むパート))

図1 Bry-Boschan法による山谷

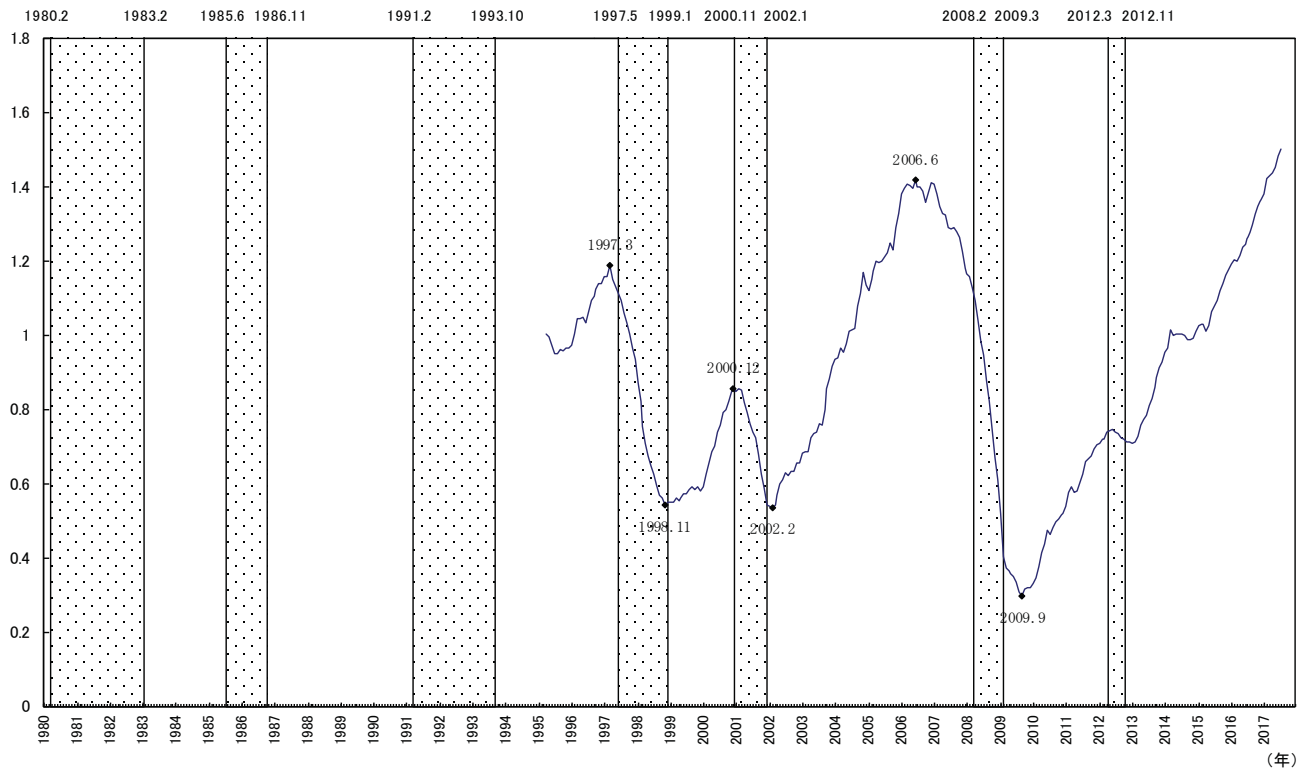


図2 パターン分析

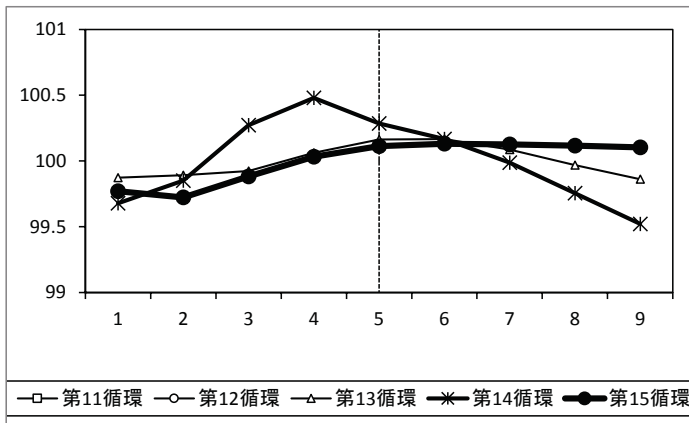


図3 時差相関

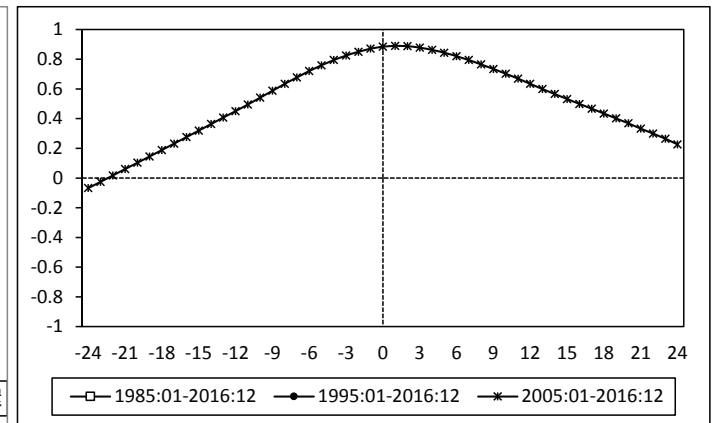


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016: NA 1995-2016: NA 2005-2016: +1	第10~15循環: -1 第12~15循環: -1	1

有効求人数(含むパート)(万人)

図1 Bry-Boschan法による山谷

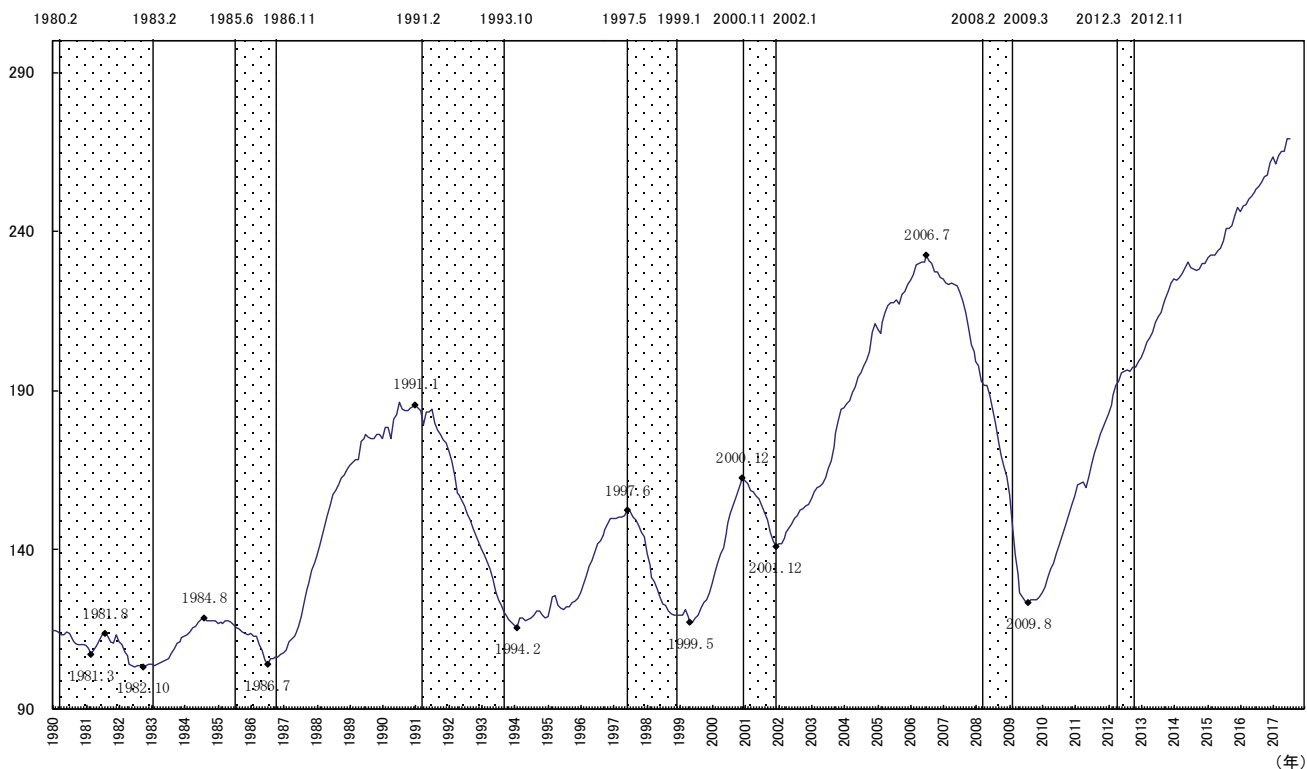


図2 パターン分析

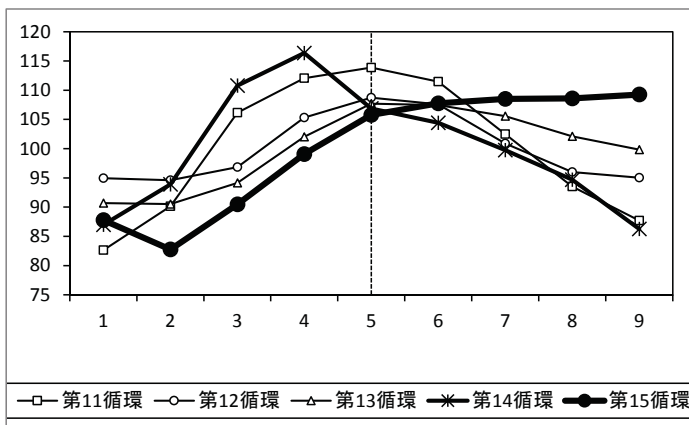


図3 時差相関

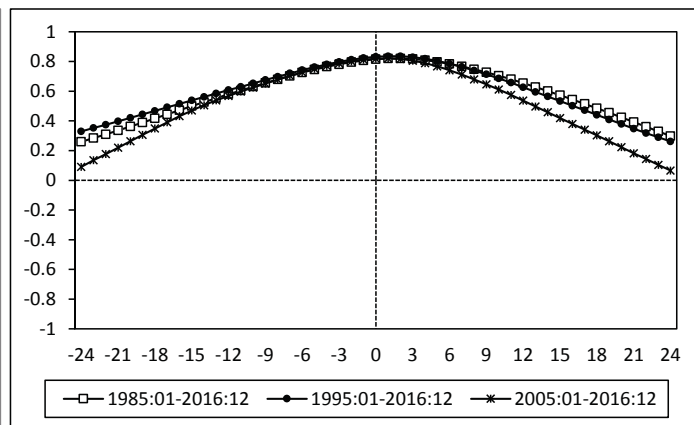


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2016:+2 1995-2016:+1 2005-2016:+1	第10~15循環:-1 第12~15循環:-1	1

現行と入替後CIのパフォーマンス比較

一致系列

	現行	入替後
現行		名目総雇用者所得追加

図1 Bry-Boschan法によるCIの山谷

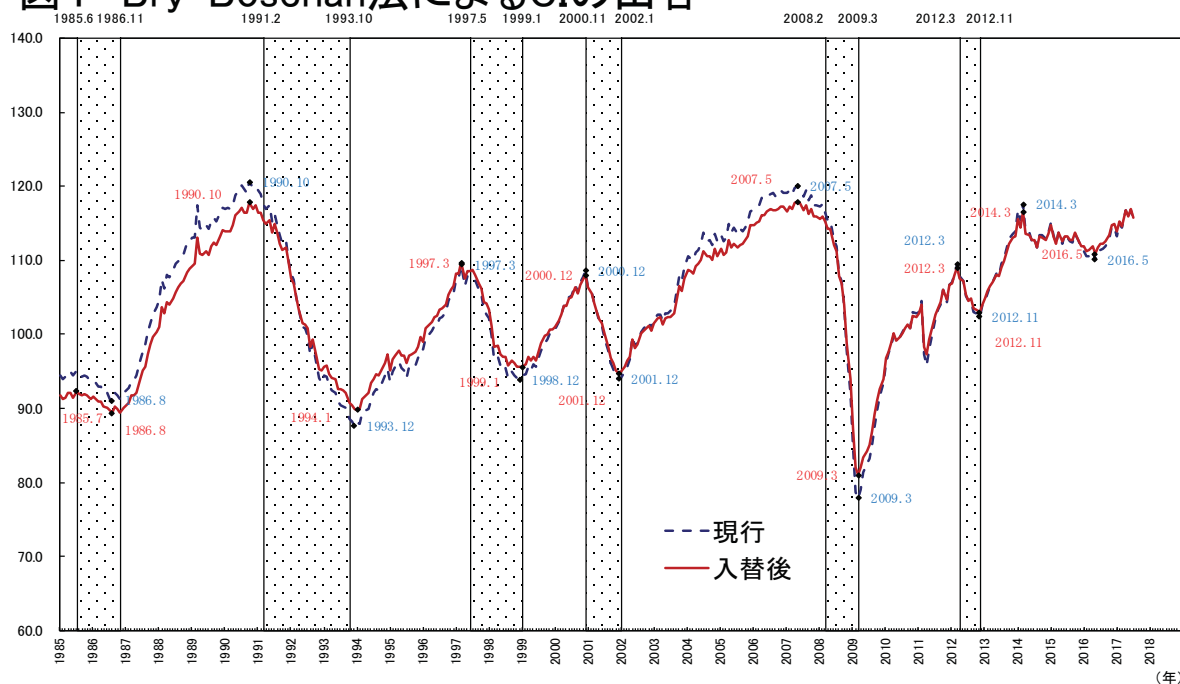


表1 現行と入替後CIのリード・ラグ

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1990.10	1990.10	-4	-4	6	7
1997.5	1997.3	1997.3	-2	-2	8	9
2000.11	2000.12	2000.12	1	1	0	1
2008.2	2007.5	2007.5	-9	-9	13	14
2012.3	2012.3	2012.3	0	0	4	4
	平均		-2.8	-2.8		

谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	1994.1	2	3	1	1
1999.1	1998.12	1999.1	-1	0	1	1
2002.1	2001.12	2001.12	-1	-1	1	1
2009.3	2009.3	2009.3	0	0	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	1	1
	平均		0.0	0.4		

- (備考) 1. タイミングのマイナスは先行、プラスは遅行を表す。
 2. CIのタイミングの判定はBry-Boschan法による。
 3. CIにおける不規則変動は、後退(拡張)期間において、3か月移動平均が前月より上昇(低下)している動きをいう。

現行と入替後CIのパフォーマンス比較

一致系列

	現行	入替後
現行		実質総雇用者所得追加

図1 Bry-Boschan法によるCIの山谷

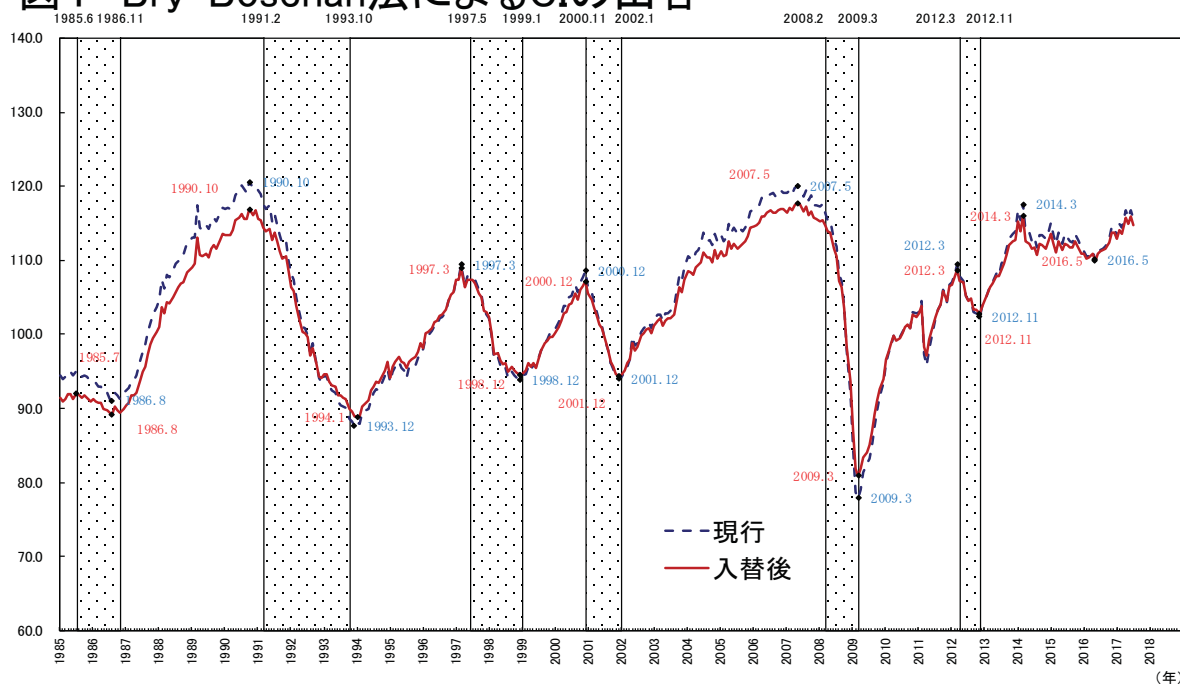


表1 現行と入替後CIのリード・ラグ

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1990.10	1990.10	-4	-4	6	7
1997.5	1997.3	1997.3	-2	-2	8	9
2000.11	2000.12	2000.12	1	1	0	1
2008.2	2007.5	2007.5	-9	-9	13	14
2012.3	2012.3	2012.3	0	0	4	4
	平均		-2.8	-2.8		

谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	1994.1	2	3	1	1
1999.1	1998.12	1998.12	-1	-1	1	1
2002.1	2001.12	2001.12	-1	-1	1	1
2009.3	2009.3	2009.3	0	0	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	1	1
	平均		0.0	0.2		

- (備考) 1. タイミングのマイナスは先行、プラスは遅行を表す。
 2. CIのタイミングの判定はBry-Boschan法による。
 3. CIにおける不規則変動は、後退(拡張)期間において、3か月移動平均が前月より上昇(低下)している動きをいう。

現行と入替後CIのパフォーマンス比較

一致系列

現行	入替後
現行	名目総定期給与所得追加

図1 Bry-Boschan法によるCIの山谷

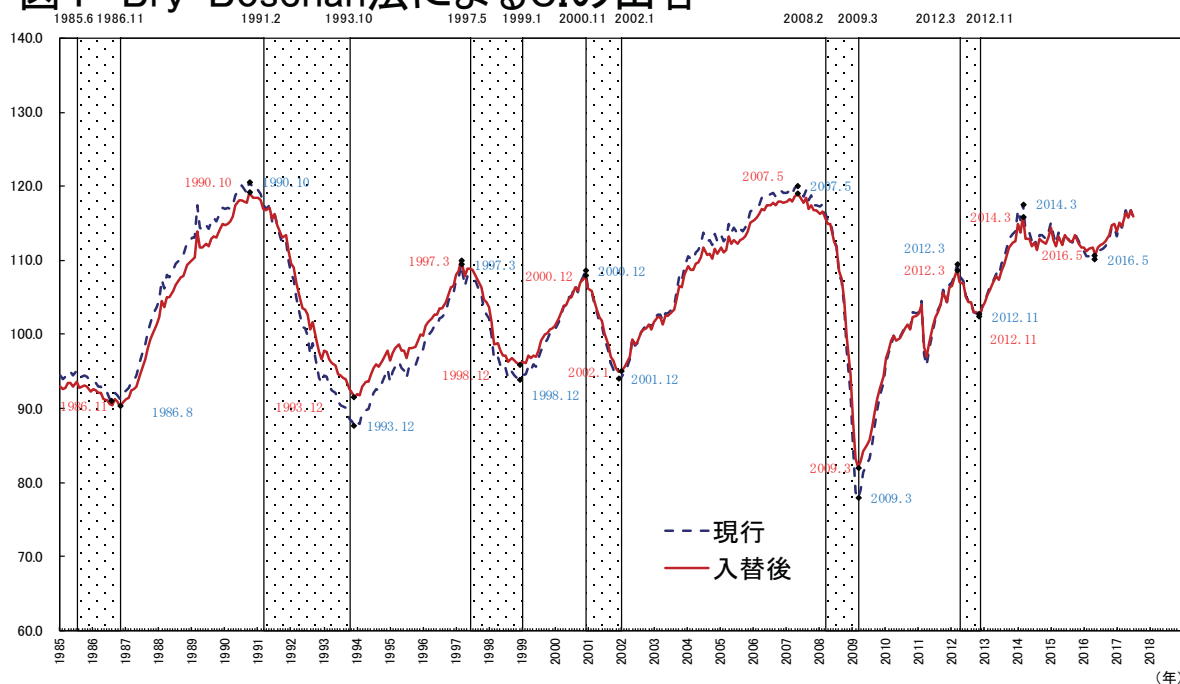


表1 現行と入替後CIのリード・ラグ

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1990.10	1990.10	-4	-4	6	5
1997.5	1997.3	1997.3	-2	-2	8	8
2000.11	2000.12	2000.12	1	1	0	1
2008.2	2007.5	2007.5	-9	-9	13	12
2012.3	2012.3	2012.3	0	0	4	4
	平均		-2.8	-2.8		

谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	1993.12	2	2	1	0
1999.1	1998.12	1998.12	-1	-1	1	1
2002.1	2001.12	2002.1	-1	0	1	1
2009.3	2009.3	2009.3	0	0	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	1	1
	平均		0.0	0.2		

- (備考) 1. タイミングのマイナスは先行、プラスは遅行を表す。
 2. CIのタイミングの判定はBry-Boschan法による。
 3. CIにおける不規則変動は、後退(拡張)期間において、3か月移動平均が前月より上昇(低下)している動きをいう。

現行と入替後CIのパフォーマンス比較

一致系列

	現行	入替後
現行		実質総定期給与所得追加

図1 Bry-Boschan法によるCIの山谷

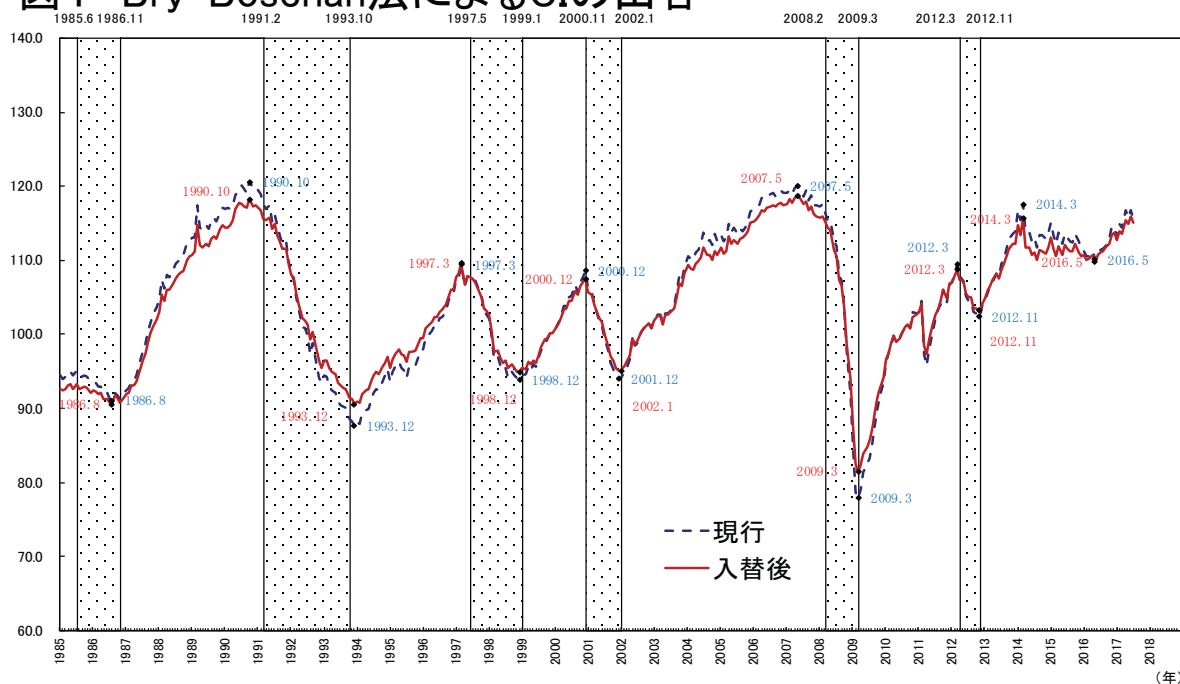


表1 現行と入替後CIのリード・ラグ

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1990.10	1990.10	-4	-4	6	6
1997.5	1997.3	1997.3	-2	-2	8	9
2000.11	2000.12	2000.12	1	1	0	1
2008.2	2007.5	2007.5	-9	-9	13	12
2012.3	2012.3	2012.3	0	0	4	4
	平均		-2.8	-2.8		

谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	1993.12	2	2	1	0
1999.1	1998.12	1998.12	-1	-1	1	1
2002.1	2001.12	2002.1	-1	0	1	1
2009.3	2009.3	2009.3	0	0	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	1	1
	平均		0.0	0.2		

- (備考) 1. タイミングのマイナスは先行、プラスは遅行を表す。
 2. CIのタイミングの判定はBry-Boschan法による。
 3. CIにおける不規則変動は、後退(拡張)期間において、3か月移動平均が前月より上昇(低下)している動きをいう。